2006年度

講　義　計　画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名			
経営学特講－企業情報の開示と税制；日本			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期	2単位	朴（パク） 大栄（テヨン）

【講義概要・学習目標】

国際化への対応は、たんに英語を話し、外国の制度･文化を勉強するだけでは十分とは言えない。その前提として、諸君の生活基盤がある日本の制度･文化の理解こそが必要である。日本を知ろうとする外国人は日本の制度･文化に関心をもっている。われわれは、受信のみならず、発信もしなければならない。彼らの質問に英語で答えることができるだろうか、これこそ見逃せない課題である。ビジネス活動の国際化により、日本の会計、商法、税制などについての英語による発信もますます重要性を高めている。

本講義は、国際的に活躍しようとする学生諸君のために企画された。流暢な英語、きれいな発音に偏り過ぎることは、勉学の本質を見失ってしまう。本講義を担当するのは、現在あるいは過去において海外赴任の経験のある、あるいは、海外企業の業務にかかわってこられた公認会計士の皆さんである。国際的に活躍されている専門家の皆さんがどのように英語で日本の会計システムを解説されるか。ぜひとも、五感で触れて欲しい。

本講義は、アジア・ヨーロッパなど本学との交流協定締結校からの交換留学生も受講する。学生間の交流も本講義の目的のひとつである。

【授業計画】

1：Accounting and Auditing Practices in Japan Introduction
2：Accounting Practices in Japan Japanese GAAP（1）
3：Accounting Practices in Japan Japanese GAAP（2）
4：Accounting Practices in Japan Japanese GAAP（3）
5：Reporting under the Japanese Commercial Code
6：Reporting under the Securities and Exchange Law in Japan
7：Semi-annual Financial Statements
8：Consolidated Financial Statements
9：History of Auditing Practice in Japan
10：Audit Standards and Practices in Japan
11：Tax System in Japan
12：Corporate Income Taxation in Japan
＊実務家による講義であるため､業務との関連で変更もありうる。

【成績評価の方法】

講師ごとのレポートと出席状況・受講態度および質疑応答内容を勘案して評価する。
英語による講義であるので、英会話力がゼロである学生の受講は困難である。

【テキスト】

とくに指定しないが、講義中に資料を配付する。

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

【備考】

インテグレーション科目
英語による授業です

科目名			
経営学特講－企業人に学ぶ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期	2単位	武田久義

【講義概要・学習目標】

この講義は、諸君の中に眠っているかもしれない能力やパワーに諸君が自ら気付き、力を発揮してもらうことを第一の目的としている。主な講義内容は、①企業の実態について学ぶこと、②働くことについて具体的なイメージを描くこと、③職場における問題の発見とそれへの対処についてまなぶこと、④企業の方と上手なコミュニケーションをとること等である。講師は、現在会社で重要な働きをしている本学のOBを中心とし、受講資格は３回生に限定している。授業は小人数で行われ、業界や企業に関する知識や話題提供のほか、課題作成、グループディスカッション等を中心にすすめられる。また、講師との自由な対話も予定している。

講義は、原則的に土曜日の午後に、５回実施する予定である。したがって１回の授業は、通常の３回分を行う。この講義は、真剣に自らの将来について考え、やる気をもって進んでいく学生のみを対象とする。したがって、作文や面接等の事前の審査を行う場合もある。

【授業計画】

（1）授業は合計５回実施：実施日については、後日掲示する。
（2）実施曜日および時間:土曜日の２．３．４時限を予定している。
（3）事前審査：６月中頃。レポートや面接等を行うこともある。
（4）講師：後日掲示する。

【成績評価の方法】

出席、受講態度、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

出席、受講態度、レポート等を総合的に判断する。

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

６月中頃に詳細を掲示するので、教務課掲示板に注意しておくこと。

か行

科　目　名			
経営学特講－国際ビジネス・変化と対応			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	北　條　弘　司

【講義概要・学習目標】
日本企業が国際ビジネスを展開する際に必要とされる知識や情報分析を実践的に学ぶことを目的とする。
具体的には　講師自身が携わって来た海外市場での販路開拓・販売促進・現法経営などをベースに，国際ビジネス推進のために必要な視点，情報，問題意識などを中心に授業を進める予定をしている。理解を進めるために調査データの活用と日本業の国際活動の事例紹介を多く含め，又　関連する国際ビジネスの時事問題も適宜取り上げ解説を行ないたい。

【授業計画】
１．国際経営の基礎：
*国際経営とは，日本の貿易の現状，対外直接投資　１週
*多国籍企業の組織展開　２週
*日本の国際競争力（IMD,WFFの評価），メガ・コンペティション　３週

２．国際経営環境
*日本事業の海外事業展開と経営管理　４週
*海外拠点の組織運営・経営管理体制の考え方　５週
*日本企業の欧州・アジア地域での事業展開　６週
*中国進出した日系企業の事業実態　７週

３．異文化接触と国際経営
*異文化経営とコミュニケーション・コンテクスト　８週
*市場の特性と拠点の特性，企業文化　９週

４．日本企業の国際経営組織
*海外現地法人の設立（開発・生産・販売・統括）　10週
*国際マーケティング，国際財務管理，為替管理　11週

５．国際経営資源管理
*.国際人的資源管理，マネージメント，駐在員に要求される資質　12週
*現地法人の業績評価，経営の現地化　13週

講義総括（予備）　14週
期末試験　15週

【成績評価の方法】
期末の筆記試験　及び　必要に応じて課すレポートを総合して評価

【テキスト】
教科書は使用せず，必要資料は授業内に配布する。

【参考文献】
日本経済新聞
テキストブック国際経営（新版）山崎　清・竹田志郎編　有斐閣ブックス

科　目　名			
経営学特講－証券の基礎知識			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	松　尾　順　介

【講義概要・学習目標】
本講義は、日本の代表的な証券会社である野村證券株式会社の専門講師陣によるインテグレーション講座である（2002年度から開講）。現代の金融経済では、直接金融の比重が高まってきており、証券化の流れが急速に進んでいる。その中で証券市場が果たす役割はきわめて大きいものがあるが、その実態はどのようなものかを現場の鋭い実務感覚をベースにわかりやすく解説してくれるのが、この講義の眼目である。証券市場と証券投資の現実を知ることは、将来の資産運用に役立つ知識を得るだけでなく、生きた経済を肌で感じる機会に出会うことでもある。多くの意欲的な学生諸君が受講して、自らの学問的感覚を磨いてくれることを期待している。

【授業計画】
次のような内容を予定している、ただし、ガイダンス以外は諸般の都合により、変更されることがある。
１．ガイダンス
２．経済情報の捉え方
３．経済成長と金融資本市場について
４．証券投資のリスク・リターンについて
５．株式市場の役割と投資の基礎知識について
６．債券市場の役割と投資の基礎知識について
７．投資信託の役割とその仕組みについて
８．ポートフォリオ・マネジメントについて
９．市場のグローバル化と証券投資について
10．資産運用とライフ・プラニング
11．資本市場における投資家心理について
12．個人投資家と証券ビジネスについて

【成績評価の方法】
期末試験をベースに評価する。

【テキスト】
野村證券投資情報部編「証券投資の基礎」丸善株式会社、2002年

【参考文献】
氏家純一編「日本の資本市場」東洋経済新報社、2002年

科目名			
経営学特講－日本企業のグローバル戦略			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期	2単位	正亀芳造

【講義概要・学習目標】
この講義は「The Global Strategy of Japanes Enterprises」をテーマに、商社で長年の実践経験をもっている講師が日本企業のグローバル戦略の実態と課題を講義するものである。

◆授業は「英語」で行われるので、その点を注意して受講してほしい。

【授業計画】
各講師は、以下のテーマについて「英語」で講義する。

1. Doing business across cultures
2. The role and functions of Sogo-Shosha
3. The House of Mitsui--it's history and evolution
4. The progress and diversification of Japaness international trade
5. Risk management in international trade
6. Textile business in Hongkong
7. Business communication in English
8. Joint venture business in China
9. Challenge to "Direct-Export" by small-sized manufacturer
10. Integrity and Flexibility in Global Business
11. What makes up a successful businessperson
12. The Fundamentals of Credit Management and Debt Collection (1)
13. The Fundamentals of Credit Management and Debt Collection (2)

【成績評価の方法】
レポート（使用言語は「英語」が望ましいが「日本語」でも可）で評価する。

【テキスト】
レジュメ及び資料は配布する。

【参考文献】
必要に応じ適宜指示する。

【備考】
インテグレーション科目
英語による授業です

科目名			
経営学特講－パソコンによる経理			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01 02	秋学期	2単位	安井一浩

【講義概要・学習目標】
経理用ソフト「弥生会計」を使用してパソコンによる経理実務を学習しますが、現実の会社経理には欠かせない消費税等の課税かどうかの判断、ソフト設定を含めて説明します。
また日常的な経理実務に加え表計算ソフトの利用、基本的な原価計算手続、決算整理事項、法人税の処理、財務諸表の作成などやや高度な実務が出来るようになることを目標とします。
なおこの講義は春学期のコンピュータ会計を履修したこと及び日本商工会議所簿記検定２級の内容を理解していることを前提とします。

【授業計画】
経理用パソコンソフトによる消費税等の処理を含む日常業務に必要な知識を説明したあと、表計算ソフトの活用方法を説明します。続いて各種税金の処理及び決算特有の処理、決算書の作成に関する事項を説明します。なお講義は例題中心に進める予定です。

【成績評価の方法】
出席回数、講義中の態度及び考査を総合的に考慮して評価します。

【テキスト】
特に使用しない。

科　目　名			
経営学特講－ビジネスと文化			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	中　村　恒　彦

【講義概要・学習目標】
With the coming of the new century, the world is changing more rapidly than ever. Steadily advancing IT revolution is changing our society, industry and lifestyle. In addition, ongoing globalization requires communication and cooperation across cultures among other things. In this class a wide range of interesting topics will be taken up for those who aspire to be citizens of the world. The class will be taught by different faculty members each week, and conducted entirely in English. Students are encouraged to participate in lively discussions.

【授業計画】
Tentative List of Topics to Be Presented
1. Globalization and English
2. Japanese Agriculture
3. Deregulation of Economy & Cooporate Restructurin in Japan
4. Japanese Retailing Industry
5. Steel Industry in Japan and the World
6. Insurance Business in Japan
7. Japanese Culture and Communication
8. Different Cultures

The final list will be distributed at the beginning of the spring semester.

【成績評価の方法】
Strict attendance is required. In place of the final examination, the students are asked to submit papers on several topics presented during the course.

【テキスト】
No textbooks are used in this course. Instead, handouts will be provided in class.

【参考文献】
To be announced in class.

【備考】
インテグレーション科目
英語による授業です

科　目　名			
経営管理論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	村　上　伸　一

【講義概要・学習目標】
経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し、1世紀余りの歴史をもっています。支配から、価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは、自由や機会平等といった基本的人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。
経営管理の場は組織ですから、経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は学校や病院など多様で膨大な組織から構成されていますが、本講義では、主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日米を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。
主に基盤的理論を学習しますが、学習を通して、実践的有用性のみならず、知的な面白さも実感し、自ら学ぶ意思を固めていくこと、これが当面の目標となります。

【授業計画】
オリエンテーション
イントロダクション
第１講　経営管理と経営管理者
第２講　経営学と経営管理論
第３講　経営管理と経営管理学説：実務と学際的応用社会科学
第４講　近代経営管理論：意思決定論
第５講　経営組織論
第６講　戦略的経営管理論
第７講　価値創造の経営管理論
コンクルージョン

【成績評価の方法】
試験成績により評価します。ビデオや教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき、それを評価に加える可能性もありますので、毎回教科書を持参下さい。

【テキスト】
村上伸一『価値創造の経営管理論（改訂三版）』創成社、2003年。

【参考文献】
片岡信之『日本経営学史序説』文眞堂、1990年。
眞野　脩『組織経済の解明』文眞堂、1978年。
村田晴夫『管理の哲学』文眞堂、1984年。
図書館で読むことができます。その他、適宜紹介します。

科目名			
経営工学			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	明石吉三

【講義概要・学習目標】

経営工学は経営諸問題に対する科学的・数学的接近法である。この分野は、英国、米国の軍事研究を発端に生まれた。その後、IE（Industrial Engineering)、オペレーションズ・リサーチ、経営科学という研究分野が生み出され、様々な経営上の課題の解決に寄与してきた。特に、戦後の我が国の経済発展には多大の貢献をしたといえる。

本分野は多くの数学的解析・計画手法に関する研究、生産管理、品質管理、在庫管理、意思決定に関する研究が含まれ、極めて広範囲である。本講義では、受講生が文科系諸君であることを念頭に、経営工学アプローチの意義、手法、特に、モデル化法の一端を講義する。高度な数学的知識を必要とするないようにしたいと考えている。

【授業計画】

以下の内容を講義する予定である。

（1）経営工学とは何か
（2）数理計画法の基本
　a．線形計画法
　b．PERT手法：プロジェクト管理
　c．近年の話題：ニューロ・アルゴリズム
　　遺伝的アルゴリズム
（3）在庫管理論
（4）品質管理論
（5）その他：意思決定論、予測理論

【成績評価の方法】

レポートおよび試験による総合評価。
出席の確認は適宜実施する。

【テキスト】

特にありません。私の講義ノートは、講義単位が終了後、各自要求して、コピーしてください。

【参考文献】

必要に応じ適宜指示します。

【備考】

講義内容が広範囲です。出席が不可欠です。

科目名			
経営財務論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	今木秀和

か行

【講義概要・学習目標】

企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人，物、金、情報の資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業内部から調達する。調達した資本は、目的や使途に合わせて資産の形態で運用される。運用の結果は、損益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分が、この講義の主要な問題領域である。

経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標である。

【授業計画】

第１部　財務の基礎
第２部　キャッシュフローと資金管理
第３部　投資決定と企業価値
第４部　資本調達と配当政策
第５部　経営戦略と財務

【成績評価の方法】

成績評価は、学期末テストを基本とする。経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標であるので、基礎知識の習得がどの程度できているかをテストによって判定することを基本とする。

途中で学習を整理し、理解を深めるために数回レポートの提出を求める。また毎回出席をとる予定である。テストを基本としながらも、テストの結果に、レポート、出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

教材として次の本を使う。
榊原茂樹、菊池誠一、新井富雄共著
『現代の財務管理』有斐閣

【参考文献】

若杉敬明著　『入門ファイナンス』　中央経済社
坂本和夫編著『テキスト財務管理論』中央経済社
後藤幸男他著『新経営財務論講義』　中央経済社
井出正介他著『経営財務入門』　日本経済新聞社
村松司叙著　『財務管理入門』　同文館
杉井弘和編著『企業財務論』　税務経理協会

【備考】

＜02生～05生＞
共通自由科目として、Ｂ生対象外
Ｂ生は学科教育科目

科　目　名			
経営史			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	長谷川　　彰

【講義概要・学習目標】
経営史学は1927年にハーバード大学経営学大学院のなかに開設された比較的新しい学問である。N・S・B・グラースによって開始されたこの学問は、アメリカの経営風土にも後押しされて、順調に発展してきた。わが国にもいち早く紹介され普及していったのである。その後、企業者史学などの展開もあり、多面的な発展をみせて今日に至っている。
本講義では、このような経営史学の動向にも関心を払いながら、具体的には日本の経営史について講義をおこないたい。徳川時代の始まりから高度経済成長期までの約350年にわたる商家経営、企業経営について講義をおこなう。
前近代から近代の経営の歴史を企業者活動の展開と併せて考えることによって、いわゆる『日本的経営』についても理解することになれば、この講義としては十分であると考える。

【授業計画】
・経営史学の成立と発展
・企業者史学の展開
・企業者活動の国際比較
・日本的経営の原型
・近世商家の経営と組織
・近世商人の経営理念
・近世の貨幣と信用制度
・近世の流通制度
・殖産興業政策と工業化
・明治期の会社制度
・企業勃興と大阪紡績会社
・三井の工業化
・財閥の成立
・戦時経済と財閥
・財閥解体
・高度経済成長
・企業グループの形成と特質
・その他

【成績評価の方法】
春学期末試験を中心に行う。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献】
Ｊ・ヒルシュマイヤー・由井常彦『日本の経営発展』、東洋経済新報社、1977
藤田貞一郎、他『日本商業史』、有斐閣、1978

【備考】
＜02～05生＞
共通自由科目として　Ｂ生対象外
Ｂ生は学科教育科目

科　目　名			
経営情報技術論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	村　山　　博

【講義概要・学習目標】
多機能携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。
本講義は、就職や実際の会社での仕事を念頭に置き、社会人として必要な情報技術の基礎の習得を目的とし、経営情報技術の活用事例を通して、現代ビジネスの特徴と問題点を浮き彫りにする。

【授業計画】
１．高度情報社会の現状と未来の生活
２．さまざまな情報と社会の変化
３．コンピュータの歴史
４．コンピュータによる情報表現：文字、映像、動画、マルチメディアの表現、
５．コンピュータのハードウエア：ディスプレイ、プリンター、記憶装置、
６．ソフトウエア：オペレーティング・システム、応用ソフトウエア、
７．通信の仕組みと各種プロトコル
８．通信ネットワークシステム:インターネット、ブロードバンド、
９．経営情報技術の活用例（１）：ユビキタス社会における情報活用、
10．経営情報技術の活用例（２）：新しいビジネスの誕生、
11．経営情報技術の活用例（３）：電機会社、自動車会社、等
12．就職や会社の実務で必要な経営情報技術に関する問題とその対策

【成績評価の方法】
授業態度、期末試験により、総合的に判断して評価する。

【テキスト】
村山博「経営情報技術の活用」西日本法規出版　2005年

【参考文献】
その都度指示する。

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として　Ｂ生対象外
Ｂ生は学科教育科目

科目名			
経営情報基礎			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	秋学期	2単位	深谷清之
02	秋学期	2単位	深谷清之
03	秋学期	2単位	村山博
04	秋学期	2単位	村山博

【講義概要・学習目標】
経営学部における経営情報関連の講義は、以下の４つである。
・“情報技術”について学習する「経営情報技術論」
・“情報システム”について学習する「経営情報システム論」
・“情報化と組織”について学習する「情報化組織論」
・“情報利用と計画”について学習する「経営工学」
この講義は、上の４つの講義のイントロダクションとして位置づけられる。それぞれの基礎的内容を学習する。また、上記の内容に加え、４つの講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。
この講義の目的は、経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータ・システム、IT（情報技術）、モデル化の技術が不可欠であることを認識してもらい、より広くは、さまざまな意思決定の局面において、論理的思考、ないしはシステム思考が大きな助けとなることを理解してもらうことである。

【授業計画】
①オリエンテーション
②数学基礎
③「経営情報技術論」の基礎
④「経営情報システム論」の基礎
⑤「情報化組織論」の基礎
⑥「経営工学」の基礎
⑦まとめ

【成績評価の方法】
レポートおよび期末試験

【テキスト】
プリント配布

【参考文献】
必要に応じて指示する。

科目名			
経営情報システム論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	深谷清之

【講義概要・学習目標】
1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証，組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。
本講義では、まず、そのような経営情報システムとは何かを概観したあと、情報システムを効果的に導入したいくつかの先進的な事例を紹介し、その効果はどのようなものかについてケーススタディを通じて講述する。
次に、経営情報システムを理解するために必要な最小限の基本的な情報技術を紹介した後、組織における情報管理、組織と情報システムの関係、業務形態と情報システムの関係、経営と情報システムの関係などを学ぶ。

【授業計画】
・経営情報システムに関する概論
・企業における先進的情報システム事例
・経営情報システムにおける基本情報技術と情報管理
・組織と情報システム
・業務形態と情報システム
・まとめ

【成績評価の方法】
授業の出席状況、レポート及び期末試験で総合的に評価する。

【テキスト】
プリント配布

【参考文献】
薦田 憲久、矢島 敬士：『企業情報システム入門』（コロナ社 1999年）

か行

科　目　名			
経営分析			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	河　合　隆　治

【講義概要・学習目標】
経営分析は、どの会社が強いのか、もしくは弱いのかについて、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書といった会計情報を利用して分析する分野です。
このような分析は、会計や金融を専門とする職業に就く場合だけではなく、みなさんがどの会社に就職しようか迷った時、株式を買う時、会社の状況を財務的に把握する時に役立ちます。
本講義では、経営分析の基本的な考え方や計算方法を理解することを目的とします。経営分析ができるようになるためには、基本的な考え方を理解するだけではなく、実際に分析できる必要がありますので、講義の途中で受講生のみなさんに簡単な計算をして頂きます。本講義を修了することにより、「会社四季報」などに書かれている会社に関するデータの意味がわかるようになり、証券アナリスト試験を受けるための基礎的な力がつくことになります。
本講義を受ける上で、経営学部の必修科目である「商業簿記」の知識を習得済み、もしくは並行して習得していることが望ましいです。しかし、本講義を理解する上で必要な簿記や会計学の知識は、必要に応じて簡潔に説明しますので、これらの知識を持っていなくても経営分析を理解することは可能です。

【授業計画】
本講義は、大まかに以下のように進めます。
1　経営分析とは何か
2　貸借対照表で何がわかるか
3　損益計算書で何がわかるか
4　会社の財務安定性はどうか
5　会社の収益力は十分か
6　会社の活性度はどうか
7　会社の発展性はあるのか
8　資金繰りは十分か
9　会社に勤める従業員の能力はどうか
10　総合的に会社の状態を分析する

講義の進度は講義の途中で行う計算演習や受講者の理解度をみて調整します。計算演習を行いますので、受講者は毎週計算機（電卓）を持参してください。
講義計画や成績評価方法などの詳細については初回の講義で説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。

【成績評価の方法】
期末試験結果を中心とし、出席、発表を加味して評価を行います（昨年度実績：試験100点、出席10点、発表10点）

※講義受講者の様子を考慮して得点配分を決めるため、昨年同様のウエイトで評価しません

【テキスト】
森田松太郎『ビジネス・ゼミナール：経営分析入門』日本経済新聞社、2002年。

【参考文献】
・桜井久勝『財務諸表分析第二版』中央経済社、2003年。
・乙政正太『基本テキストシリーズ：財務諸表分析』同文館出版、2005年。

・ほぼ毎回必要な補助資料（プリント）を配布します。分量が多いので、ファイルを用意してください。
・その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

科　目　名			
経営労務論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	正　亀　芳　造

【講義概要・学習目標】
21世紀に入り、厳しい経済環境のもとで日本企業は様々な改革に取り組んでいます。中でも、経営労務に関わる諸制度の改革が盛んです。経営労務とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの３要素のうち、ヒトに関わる管理をいいます。企業経営を動かすのはヒトであり、その働き如何が経営を左右します。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした経営労務のあり方もその転換が求められています。本講義では、現代の日本企業が経営労務において直面している諸問題を可能な限り多面的に考察し、その展望を試みたいと思います。
現代の日本企業が直面している経営労務の主要な問題は何かを理解すること、それが当面の学習目標となります。

【授業計画】
テキストに従って、概ねその順序で講義を進めます。
1．経営労務論とは　　2．企業経営と経営労務
3．働く動機－モチベーション論
4．人を動かす－リーダーシップ論
5．職務設計　　6．組織設計
7．雇用管理　　8．キャリア開発
9．人事考課制度　　10．専門職制度
11．賃金制度　　12．福利厚生制度
13．労使関係　　14．女性労働者
15．高年齢労働者　　16．研究開発技術者

【成績評価の方法】
①期末試験の成績、②講義ノートのまとめ方、③レポートおよび講義中の小テストの成績、を総合して評価します。

【テキスト】
奥林康司編著『入門　人的資源管理』中央経済社、2003年。

【参考文献】
吉田和夫・大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』(三訂版) 同文舘、2003年。
奥林康司・平野光俊編著『フラット型組織の人事制度』中央経済社、2004年。
その他、講義中に適宜指示します。

科　目　名			
景気循環論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	滝　田　和　夫

【講義概要・学習目標】

バブル崩壊から十数年、全体として停滞的・慢性不況的に推移してきた日本経済もようやく停滞を脱し、ここ数年間順調な回復を続けている。不良債権問題はおおむね解決し、デフレも終了した模様である。しかし、今回の比較的緩やかな景気回復は、2002年１月の景気の谷から数えてすでに48ヶ月（2006年１月時点）を経過しており、2006年中には戦後最長の拡張記録である「いざなぎ景気」の57ヶ月に肩を並べることになり、いずれ景気後退局面を迎えるのは避けられないものと思われる。学生諸君は、自分の就職がどうなるのか不安に思うと同時に、なぜ資本主義経済において好況・不況の景気循環が存在するのか、疑問に思っていることだろう。この講義では、景気循環に関する標準的・基本的な理論を理解することに主眼を置き、併せてその問題点を検討していきたい。なお、景気循環論はマクロ経済学の応用の側面をもつので、経済原論ＩＡ－２を修得済みであるか、またはこの講義と並行して履修されることが望ましい。

【授業計画】

第Ｉ部　景気循環とは何か
　第１章　景気循環の定義
　第２章　景気循環の測定
第Ⅱ部　景気循環の諸理論
　第３章　景気循環理論の基礎
　第４章　乗数・加速度理論
　第５章　非線型景気循環論
　第６章　不規則衝撃の理論
　第７章　マネタリストの理論
　第８章　リアルビジネスサイクルの理論

【成績評価の方法】

試験の成績による。試験の回数や出席をとるかどうかは受講者数を見て決める。

【テキスト】

指定しないが、参考文献１の第Ⅱ部が特に参考になる。また、随時プリントを配布する。

【参考文献】

１．淺利一郎著『IT時代のマクロ経済学』（実教出版社）
２．置塩信雄編著『景気循環』（青木書店）
３．長島誠一著『景気循環論』（青木書店）
４．Ｊ．Ｒ．ヒックス（著）古谷弘（訳）『景気循環論』（岩波書店）

科　目　名			
経済開発論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	望　月　和　彦

か行

【講義概要・学習目標】

テーマ：経済開発の歴史と現状

イラクやアフガニスタンの現状を見れば、貧困がテロの温床となっていることが分かる。テロを撲滅するためには、貧困の解消、即ち経済発展を促進しなければならないのであり、その意味で開発途上国の経済発展問題は、すでに高い生活水準を達成した先進諸国にとっても他人事ではない。

それではどうすれば経済発展・経済開発に成功することができるのだろうか。それは経済発展の歴史に学ぶしかない。そこで産業革命以後、20世紀初めまでの経済発展の歴史の説明を行う。

また経済発展は私たちに豊かな生活をもたらすと同時に色々な弊害も引き起こしている。その中でもっとも深刻と思われているのは環境問題であり、資源問題であり、人口問題である。本講ではこれらの問題を取り上げていく。中心となるのは資源・環境問題であり、これらの問題が果たして経済成長をストップさせるかどうかを考えていく。

最後に経済発展に必要な社会条件について論じる。

本講では、色々な問題に対して全く異なる接近法をとったり、世間一般に信じられていることとは全く正反対の議論が行われることがある。そのため授業に出ることのできない学生諸君が単位を取ることは大変難しい。受講生には、柔軟な思考、冷静な判断力が求められる。

過年度までの講義の内容については、４月初めに過年度に配布したプリントを自宅のホームページ上に掲載する予定。ホームページアドレス：http://www.cg-s.bias.ne.jp/~ponchan/

【授業計画】

第一部　経済発展の歴史的意義
　第１章　成長と停滞　どちらが当たり前？
　第２章　進歩思想vs終末思想
　第３章　産業革命の意義
　第４章　第一次世界大戦
　第５章　大量生産方式の成立
第二部　環境問題と成長の限界
　第１章　現代の終末思想としての環境問題
　第２章　今日の環境問題の類型
　第３章　オゾン層破壊
　第４章　地球温暖化
　第５章　生物種の多様性、砂漠化、森林破壊
　第６章　廃棄物問題
第三部　資源問題
　第１章　資源と経済成長
　第２章　資源問題の真相
　第３章　エントロピーの妥当性
　第４章　経済成長に対する真の制約
第四部　経済発展の要因
　第１章　経済発展の要因についてのこれまでの議論
　第２章　経済発展の要因としての秩序
　第３章　秩序の源泉
　第４章　まとめ

【成績評価の方法】

期末試験の成績のみによって評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。

科　目　名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	春学期集中	4単位	荒　木　英　一

【講義概要・学習目標】
経済学の専門用語と基本的な考え方を概説していく。新聞や雑誌の経済記事あるいは経済財政白書などの内容を理解するための基礎学力の習得をめざすが、受講生諸君には、経済の動きを論理的に考察することの大切さを理解していただければと思っている。

【授業計画】
日本の経済力と景気の現状
有効需要原理とは
日本のおカネ
財政・金融政策の効果
オープン・エコノミー
失業とデフレーション

【成績評価の方法】
授業中の小テストと学期末試験による。

【テキスト】
使用しない。プリントを配布する。

【参考文献】
適宜に指定する。

科　目　名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	春学期集中	4単位	西　川　憲　二

【講義概要・学習目標】
日常生活の中で、私達は日々いろいろなことを選択し決定をしている。このとき「お金」が大きな決定要因になっていることが少なくない。このことは、私たちが「経済学」に取り込まれていることを意味している。言い換えると、経済学とは、我々の選択を経済的側面から解き明かしていく学問である。そればかりではなく、経済学は、企業や国家の選択や行動を説明する。そこで、経済学から、個人・企業・国家を眺めることによって、私たちの生活と社会がどのように機能してしるのか、これからの日本経済はどうなっいくのか考えてみたいと思う。

【授業計画】
1．経済学とは
2．日本経済と世界経済の現状
3．マクロ経済学
　GDP
　所得・支出分析
　総需要政策
　銀行制度
4．貿易と為替レート
　比較優位の法則
　円高・円安
5．ミクロ経済学
　消費者の行動
　企業の行動（独占・完全競争・不完全競争）
　公共部門の行動

【成績評価の方法】
出席、小テスト、学期末テスト

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献】
スティグリッツ著「入門経済学」「マクロ経済学」
「ミクロ経済学」東洋経済新報社

科　目　名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03	秋学期集中	4単位	熊　谷　次　郎

【講義概要・学習目標】
この講義は、経済学を主要な専攻とすることがないであろう諸君を対象とする入門的な講義であるが、経済学を生業としている私の立場としては、少しでも多くの経済学ファンをつくりたいと思っている。明治３年、福沢諭吉は欧米から導入されてきた（彼自身がその導入者でもあったが）経済学のことを、「眠食を忘れ候程面白きもの」と書いた。儒学しか知らなかった当時の知識人にとっては、市場社会なるものが形成され、そこで自由な個人が利己的利益を求めて行動する結果が、見事な社会的調和をもたらすことを説く経済学はそれほど面白く驚愕すべき学問であった。この講義が受講者にとって寝食を忘れるほどの面白さを持つものになるかどうかは自信がないが、いまでも経済学という科目は、世界のどこでも、福沢が驚愕した経済の仕組み、すなわち価格と需要と供給が相互に関連し依存しながら市場秩序が形成されている姿の説明から講義をはじめている。そこでこの講義でも「市場とは何か」ということを中心に経済学的なものの見方と考え方をまず最初に講義し、つぎにその見方や考え方を経済社会に具体的に適用するとどうなるかということを、ミクロ経済学とマクロ経済学という現代経済学では必ず触れられる分野の基礎の基礎を学習することを目標としたい。

【授業計画】
以下の順序で講義する（予定）
Ⅰ．経済（学）のものの見方と考え方
　１．言語と市場
　２．市場の役割
　３．経済行動における合理性の問題
　４．経済の循環
　４．経済循環における貨幣の役割
Ⅱ．ミクロ経済学の基礎
　１．需要と供給
　２．消費者の行動
　３．企業の行動
Ⅲ．マクロ経済学の基礎
　１．GDP（国内総生産）とは何か
　２．経済の成長と変動
　３．金融と財政
　４．貿易と為替

【成績評価の方法】
出欠は取らないが、そのかわりに期末試験（その結果をもっとも重視）のほかに数回の小テストを行う予定なので、これらの試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】
なし。毎回レジュメを配布する。

【参考文献】
必要に応じてその都度指示する。

科　目　名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
04	秋学期集中	4単位	厳　　善　平

か行

【講義概要・学習目標】
近年、格差に関する議論が盛んだ。持てる者と持たざる者の間に所得や資産の所有状況がまるで違う。年収300万円以下の階層が肥大化する一方、数千万円以上の高所得者も増加している。
　こうした経済格差の背後に社会格差、つまり職業階層の固定化がある。職業階層間における上昇移動、言い換えれば、親に較べて子が、個々人が加齢するとともに、収入や社会的ステータスのより高い職業への移動が困難となっている。日本は、努力すればなんとかなる平等社会から、いくら頑張ってもどうしようもない格差社会へと突入したのである。格差を語る際によく用いられる言葉として、勝ち組、負け組み、フリーター、ニート、派遣社員、下流社会、希望格差、学歴格差、機会不平等、貧困などがある。
　経済の両極分化、社会階層の固定化は日本に限って見られる現象ではない。アメリカ、中国などにも存在する。もっというと、この地球上の国々の間にも富の偏在が想像に絶するほど深刻化している。
　この講義では、日本をはじめ世界各国の経済格差や社会格差の実態を説明し、それがもたらされた要因、各国の採っている対策について解説する。この授業を受けることによって、市場化、グローバル化の進行に伴う社会・経済の歪みを理解することができる。

【授業計画】
・経済格差とはどういうものか
・経済格差をどう測るか:ジニ係数など
・所得格差と資産格差:統計で見る
・格差と中流意識:主観と客観のズレ
・格差をもたらすものは何か:能力、努力、運
・格差の国際比較:先進国、途上国および両者の間
・格差と貧困と差別:貧困ライン、貧困人口
・社会階層と社会移動:日本のSSM調査
・職業に関する世間の評価:実態と変化
・職業階層間の移動と決定要因:機会平等をどうみるか
・格差をどうみるか:政府の役割

【成績評価の方法】
出席状況（出欠調査は打ち抜きで行う）、中間レポート、期末試験の成績を総合して行う。

【テキスト】
橘木俊詔『日本の経済格差―所得と資産から考える』岩波新書 1998年

【参考文献】
佐藤俊樹『不平等社会日本―さよなら総中流』中公新書　2000年
樋口美雄『日本の所得格差と社会階層』日本評論社　2003年
大竹文雄『日本の不平等』日本経済新聞社　2005年
山田昌弘『希望格差社会―「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』筑摩書房　2004年
ほかは随時配布。

科　目　名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	通期	4単位	麻　生　憲　一

【講義概要・学習目標】
経済学には特殊な専門用語が非常に多く、そのうえ数式や統計データなども含まれているため経済学を勉強したことのない門外漢にとって、その理解は至難の業である。また日頃、新聞や雑誌などで財政・金融政策の記事は目にはするけれど、その内容を正確に理解できている人は案外と少ない。しかし、多少なりとも経済学的な考え方や専門用語を理解しているだけで経済記事の読み方や現実経済の見方が変わってくるのも事実である。その意味で、経済学は生きた学問としての醍醐味を与えてくれる。

本講義は、初めて経済学を学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な考え方、専門用語、図表ならびに統計データの見方などを概説する。

知識の習得は重要なことではあるが、ただ単に暗記に終わることのないよう配慮して講義を進めていく。

【授業計画】
以下の内容を適宜選択して説明する。

経済学の基本概念
経済主体の行動様式
市場形態と均衡
市場の失敗
情報の不完全性
国民経済計算
家計の消費行動
企業の投資行動
貨幣の機能
財政・金融政策
失業と不況
貿易と国際収支

【成績評価の方法】
定期試験とレポートにより評価する。また、出席点を考慮する場合がある。

【テキスト】
使用しない。必要に応じてプリント配布。

【参考文献】
授業中にその都度指示をする。

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科自由科目

科　目　名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	春学期集中	4単位	中　村　勝　之

【講義概要・学習目標】
我々の時間認識が早まっているのか、はたまた情報の伝達速度が速くなったためかどうかは不明だが、ここ数年の時間で区切ってみても、国内外問わずかなりの数の経済問題が噴出した。しかし時がたつにつれて問題にされた事象もいつの間にか解決（ないしは済し崩しに）され、我々の記憶から忘れ去られる。このこと自体は自分の将来設計になんら問題なさそうだが、そうではない。ある経験をすると、次に似たような状況になったときに同じ結果を招かないようにするのが人間の真の知恵であり、ここに歴史を学ぶ意味がある。
　そこでこの講義は、過去数年間における日本経済で話題になった事象について、その背景と顛末について解説していく。その中で、ある事象が生じるには必ずどこかに原因があり、結果はその必然として生じることを理解していきたい。なお、必要に応じて数学を利用して行くので、この点を覚悟した上で受講に臨んで頂きたい。

【授業計画】
※以下の順序で講義をしていく。
①ガイダンス:学習目標と成績評価を提示
②GDPとは？
③過去４年間の日本経済の動向
④財政再建と民営化
⑤金融と企業の再構築
⑥地域経済と地方分権
⑦少子高齢化社会への対応

【成績評価の方法】
①講義時間中に行われる「小テスト」（５回程度実施）
②講義期間中頃に行われる「中間テスト」
③最終講義時に行われる「期末テスト」
※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算し、必要であれば加点措置を行う。なおこの加点措置に、いわゆる「出席点」は入らない。

【テキスト】
使用しない。適宜資料（レジュメ）を配付する。

【参考文献】
内閣府編『経済財政白書』（平成14年版～17年版）

【備考】
試験情報などはホームページ（http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura）を参照すること。
＜02～06生＞
共通自由科目として、E生は対象外
E生は学科教育科目

科目名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担当者
03	春学期集中	4単位	矢根眞二

【講義概要・学習目標】
初めて経済学を学ぶ人のための入門経済学の講義です。経済学の基本は経済学部生必修のミクロ経済学（経済原論IA-１）とマクロ経済学（経済原論IA-２）ですから，ミクロにもマクロにも共通する考え方と分析道具の基礎を新入生の間に修得しておこうというのが学習目標です。
特徴は，現代経済学の基本である「単純化したモデルで分析する」という「経済学の考え方」に親しむために，講義の前に該当する教科書の対応部分を読み，実際に自分の頭で問題を解いてみるという「経済学の学び方」の習慣形成に重点をおく点です。こうした学習法を身につけてもらうために，読みやすい教科書を指定し，「自分の頭で考える」ことを楽しみやすいゲーム論から学習する予定です。
ですから自分なりの考え方を確立するために計画的に行動しようとする人には最適ですが，試験直前に丸暗記するのが勉強だと思っている人には向かないでしょう。また，経済学の基本モデルの大半は簡単な数式で表現でき，実際にミクロやマクロの教科書にはグラフや記号が多用されるので，微分等の知識がない経済学部生は「経済学のための数学入門」等の早期履修を強く推奨します。

【授業計画】
●第１部　経済学とゲーム理論
講義の進め方・試験の形式・成績評価法等の履修情報と，学習するモデルとその効率的な学習法等の重要事項のガイダンスです。以下の項目を含めた詳細は開講時の教員サイトを参照して下さい。
http://rio.andrew.ac.jp/~yane/

●第２部 体感！　ゲーム理論の使い方
「複雑な現実を簡単なモデルで考える」ことを体感するために，バラシュの１－５章を読んでもらい，講義ではゲーム論の補足・解説を行い，練習問題を通じてゲーム理論の使い方を学習します。

●第３部 実践！　競争経済の捉え方
日常の経済現象を理解する手がかりとして再度サムの主張を読み返してもらい，講義では標準的な経済モデルの観点からの補足・解説を行い，練習問題を解くことによって基本的な概念やモデルの使い方を学習します。

【成績評価の方法】
●試験得点合計等の６割以上が合格ラインの原則です
●授業中の課題・質疑・態度等を考慮する場合もあります
●試験終了後のリポート等の予定はありません
●追試験は，公開している過去の定期試験の問題や形式とは大きく異なることがあります

【テキスト】
●ロバーツ（2003）『インビジブルハート　恋におちた経済学者』日本評論社 1600 →恋愛小説仕立てなので１日で気軽に読めますが，奇妙に思えるサムのモチーフはノーベル賞経済学者のフリードマンですから，「エコノミストの考え方」を知る手頃な入門書ともいえるでしょう
●バラシュ（2005）『ゲーム理論の愉しみ方』河出書房 2200 →わずかなパターンのゲームしか扱わない分，事例や解釈に多くの頁を割いているので，考えながら読むことを実践できれば相応の読み応えを感じるはずです

【参考文献】
●渡辺隆祐（2004）『図解雑学ゲーム理論』ナツメ社 14 →電車で読めるゲーム論全般の手引で，講義では同時ゲームの主要な概念を解説しながらバラシュを補足します。
●マンキュー（2005）『経済学Ｉミクロ編』東洋経済 40 →標準的な入門経済学の教科書で，講義では前半部分の概念やモデルを使ってサムの主張を解説・補足します

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として、Ｅ生対象外
Ｅ生は学科教育科目

科目名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担当者
04	秋学期集中	4単位	吉田恵子

【講義概要・学習目標】
この講義の目標は、ミクロ経済学と、マクロ経済学の概要を理解することである。具体的には、消費者・企業・政府といった経済主体の行動を分析するミクロ経済理論の基礎と、日本経済や世界経済の全体の動きを分析するマクロ経済理論の基礎を紹介する。毎回レジュメを配布し、それに沿って講義を進める。受講者はある程度の数学の知識を持っていることが望ましいが、数学の知識をもたない者でも理解できるように、必要な知識は授業中に紹介する。なお授業中の私語、携帯電話の使用は厳禁とする。

【授業計画】
イントロダクション

ミクロ経済学とは
需要と供給
公共部門の経済学
企業行動と産業組織
労働市場の経済学

マクロ経済学とは
GDPはどのように決まるか
財政政策と金融政策
国際経済

【成績評価の方法】
中間試験20点と期末試験80点。万が一、中間試験を受けられなかった場合でも、期末試験で60点以上取ることが出来れば単位を取得することが出来る。

【テキスト】
指定しない

【参考文献】
「マンキュー経済学〈１〉ミクロ編」 N.グレゴリー マンキュー（著） 東洋経済新報社
「マンキュー経済学〈２〉マクロ編」 N.グレゴリー マンキュー（著） 東洋経済新報社
「入門 価格理論」 倉沢 資成（著） 日本評論社
「図解雑学 マクロ経済学　　図解雑学シリーズ」 井堀 利宏（著） ナツメ社
「インビジブルハート―恋におちた経済学者」 ラッセル ロバーツ（著） 日本評論社

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として、Ｅ生対象外
Ｅ生は学科教育科目

か行

科　目　名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	通期	4単位	石　橋　貞　男

【講義概要・学習目標】
経済学への入門的な講義です。経済学の基礎的な考え方や理論を説明し，それを基礎としながら，具体的にマネー経済からみた現代資本主義論入門をめざします。日本経済についてグローバリゼーション下では「世界のなかの日本」という視角なしには，考えることができなくなっています。本講義では，そのような視角の下で，世界通貨体制や日本経済の現状についてできるだけ解説していきたいと思います。
目標は２つあります。１つは，現実の経済現象について，新聞等をとおして正確な理解が得られるような基礎的な知識を身につけるということです。２つめは，さらに今後，経済学をより理論的・実証的に学んでいく上での，経済的な考え方や関心をもっていただくということです。

【授業計画】
教科書に即しながら，一方では基礎理論を補足しつつ，他方では新聞・経済雑誌等からの具体例をできるだけ参照して講義を進めていく予定です。講義計画は次のとおりです。進捗状況に応じて変更します。
（1）ガイダンス（授業の進め方,講義内容の紹介）（2）円高・円安とは何か（3）円高・円安と日本経済について（4）これまでの円の動きについて（5）デリバティブとヘッジファンドについて（6）ヘッジファンドとポンド危機について（7）ポンド危機の背景（8）アジア通貨危機について（9）これからの円と元について（10）これからの国際通貨体制（11）銀行の仕事について（12）日銀の仕事について（13）日銀とインフレ・デフレについて（14）プラザ合意について（15）バブル経済について（16）バブル崩壊後の日本経済について（17）景気対策について（18）借金大国日本について（19）国債について（20）政府の財政政策の現状について（21）日銀の金融政策の現状について（22）まとめ

【成績評価の方法】
定期試験，出席状況による。

【テキスト】
細野真宏『経済のニュースがよくわかる本（日本経済編）』小学館,2003年。

【参考文献】
細野真宏『経済のニュースがよくわかる本（世界経済編）』小学館,2003年。
馬渡尚憲代表編集『現代の資本主義－構造と動態－』御茶の水書房,1992年。

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として、Ｅ生対象外
Ｅ生は学科教育科目

科　目　名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	通期	4単位	大　澤　　健

【講義概要・学習目標】
私たちが暮らしている社会は「市場経済」とか「資本主義社会」と呼ばれる社会です。「市場」「貨幣」「商品」といった言葉は日常的に使われる言葉ですが、改めて説明するとなるとなかなか難しいものです。
「経済学基礎理論Ｂ」では、この市場経済についての基礎的な知識と、経済学というものの理論的な考え方の習得を目指しています。「市場」「貨幣」「資本」といった基礎的な用語の意味を解説しながら、それらがどのように動くことでこの社会を作っているのかを考えていきます。

【授業計画】
＜春学期＞
１．市場と商品
　・市場とは何か
　・市場の原理と特性
　・商品とは何か
２．貨幣または商品流通
　・貨幣とは何か
　・貨幣の諸機能
　・貨幣と通貨制度
＜秋学期＞
３．資本
　・資本とは何か
　・資本主義的生産の諸特徴
　・われわれが暮らす経済社会の全体像

【成績評価の方法】
秋学期末に行う試験の成績によって評価する。春学期中にレポートの提出を課すが、これを「加点要素」として考慮する。

【テキスト】
柴田信也編著「政治経済学の原理と展開」（創風社）

【参考文献】
カール・マルクス著「資本論」

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として、Ｅ生対象外
Ｅ生は学科教育科目

科目名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担当者
03	秋学期集中	4単位	松尾　純

【講義概要・学習目標】

この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みとそれを構成する基礎的な諸概念を理解することをを目的としています。資本主義経済の基礎的仕組みとその諸概念を理解するためには、社会を経済的側面だけから見るだけでは不十分です。この社会を構成している政治的・社会的・制度的な諸側面をも含めて総合的に分析しなければなりません。

この目的を果たすために、この講義では、「経済学の歴史」（重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等）と「経済の歴史」を概観します。この作業を通じて、資本主義経済を、政治的・社会的・制度的な諸側面から包括的に理解する方法を身につけることができるように配慮しつつ講義を進めていきます。

なお、本講義は、直接的には、本学カリキュラムの「経済原論ＩＢ」（＝マルクス経済学）の基礎を解説することを目的とします。

【授業計画】

１．講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス（１回）。
２．経済学とは何か。経済学の目的。（２回）。
３．経済の歴史の概観。（３回）。
　原始共同体－奴隷制－封建制－資本主義－社会主義社会
４．経済学の歴史の概観。（８回程度）。
　１.重商主義･重農主義　　２．アダム･スミスの経済学。
　３．D.リカードの経済学　　４．Ｊ・Ｓ・ミルの経済学
５．経済学の基礎理論。(11回程度)。
　1,限界革命と新古典派経済学　2,ケインズ経済学
　3,マルクス経済学
　　１．商品　　２.貨幣
　　３．資本とは何か。　　４.剰余価値の生産。
　　５．賃金。　　６.資本の蓄積。
　　７．資本の流通過程。　　８.利潤・信用。
６．現代の日本経済および国際経済を理論的に概観する。(３回)。
７．講義の総括。（１回）。

【成績評価の方法】

成績評価は学期末のテストによって行なう。
成績不良者を救済するために、講義中に小テストを行う予定です。

【テキスト】

テキストは指定しません。受講者数が適度な限度内であれば、出来る限り、講義資料等を配布するようにします。

【備考】

＜02～06生＞
共通自由科目として、Ｅ生対象外
Ｅ生は学科教育科目

科目名			
経済学史			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	熊谷次郎

か行

【講義概要・学習目標】

経済学史という科目は、それぞれの時代を生きたエコノミストや経済学者が、その時代の経済世界をどう見ていたか、その時代の課題をどう解決しようとしていたか、言い換えれば経済世界に関して彼らがいかなるアイデアをもっていたかということの歴史であろう。とすれば、学史を通してさまざまなアイデアに出会うことができるし、そのアイデアのなかには現代社会を理解し、現代の問題を解決する手がかりが隠されていると言えるのではないだろうか。こうしたことが多分経済学史を学ぶこと意義あるいは効用ではないかと思う。この講義ではこうした観点から、経済学の歴史を、市場の形成と経済学の誕生（15～17世紀）、重商主義（17～18世紀）、古典経済学の成立と展開（18～19世紀）、19世紀においてはイギリスに比べて後発国であったドイツ、アメリカ、日本などの経済学、近代経済学の成立と展開（19～20世紀）の順序で概説したい。経済学の歴史を縦糸に、時代を超えた経済学のテーマを横軸とする構造をもつ講義としたい。テーマとは、啓蒙と経済学、徳と富、市場と国家、経済循環や経済発展における国内的契機と国際的契機、実物経済と貨幣経済、自由貿易と保護主義、などである。受講者が経済学の歴史だけでなく、世界史、社会経済史、思想史への知識を広めたり深めたりできるようにしたいと考えている。

【授業計画】

以下の順序で講義する。
Ⅰ．市場の成立と経済学の生誕
Ⅱ．重商主義
　（１）東インド会社重役トマス・マンの貿易差額論
　（２）キャラコ論争における自由貿易と保護主義
　（３）植民地と帝国と経済学――デフォーの経済循環論
　（４）ウィリアム・ペティ――「政治算術」の登場
　（５）ジョン・ロック――貨幣の内在的価値をめぐる問題
Ⅲ．古典経済学の成立と展開
　（６）ケネー『経済表』における経済循環
　（７）デーヴィッド・ヒューム――奢侈と勤労と貨幣数量説
　（８）ジェームズ・スチュアート――有効需要創出と国家の役割
　（９）アダム・スミス――「経済学の父」のおける文学と経済学
　（10）リカードウ――古典派最高峰の理論家による資本主義分析
　（11）マルサス――有効需要論にもとづくリカードウ批判
　（12）Ｊ．Ｓ．ミル――ヴィクトリア朝時代の諸問題と苦闘した知識人の経済思想
　（13）マルクス――ミルと同時代人による資本主義経済の批判的解剖
Ⅳ．後発資本主義国の経済学
　（14）リストならびにドイツ歴史学派――経済学の国民的特性の認識
　（15）「アメリカ体制」派ならびにアメリカ制度学派の経済学
　（16）日本の経済学――古典派、歴史学派、マルクス経済学の受容過程
Ⅴ．近代経済学の成立と展開
　（17）限界革命の経済学者たち――メンガー、ジェヴォンズ、ワルラス
　（18）マーシャルとケンブリッジ学派
　（19）シュンペーター――「創造的破壊」と「新結合」の経済学
　（20）ケインズ――有効需要論と重商主義的貨幣分析の復活による不況克服の処方箋

【成績評価の方法】

出欠はとらない。これは従来とは異なる点なので受講予定者はこの点を銘記しておいてほしい。そのかわりに期末試験（この結果をもっとも重視）のほかに数回小テストを行う予定なので、これらの試験を総合して評価する。

【テキスト】

なし。毎回レジュメを配布する。

【参考文献】
田中敏弘編著『経済学史』八千代出版，1999年，3200円
竹本洋・大森郁夫編著『重商主義再考』日本経済評論社，2002年，2800円

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として、Ｅ生は対象外
Ｅ生は学科教育科目

科目名			
経済学特講－経済学部で必要な中高数学			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期	2単位	三　原　裕　子

【講義概要・学習目標】
数学が苦手で文系である経済学部を選んだ人は多いのではないでしょうか。ところが実際蓋を開けてみると、「思いっきり数学を使う」ということで戸惑っている人も多いはずです。別にこれは学生を意図的にいじめようとしているのではなく、数学を用いることで明快な議論を展開することが出来る、という意味で数学が一番便利な「道具」だからなのです。パソコンを操作するときに「マニュアル」を読みこなせないと十分に利用できない、これと同じです。つまり数学とは経済学を読みこなすための「マニュアル」なのです。ただしそこで使われる数学はとてつもなく難しいものではなく中・高数学で十分なレベルなものです。
そこでこの講義では、経済学を学ぶ上で最小限必要である中・高数学を学ぶことを目的とします。

【授業計画】
以下を中心に講義を進めていきます。
・数と式、方程式
・関数とグラフ
・微分
・微分の応用
・行列
ただし、皆さんの理解度を考慮した上で講義内容を変更する場合もあります。

【成績評価の方法】
・出席は一切とりません。
・期末試験および講義期間中に行う小テストをもとに総合的に評価します。

【テキスト】
特に教科書は指定しません。必要に応じて参考資料および問題を配布します。

【参考文献】
講義中に随時紹介していきます。

科目名			
経済学特講－就職試験対策のための数学			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期	2単位	三原裕子

【講義概要・学習目標】

数学とは論理力や分析力を鍛えるのに格好の「道具」です。このような論理力を試すために、就職活動において不可欠であるといっても過言ではない適性検査のうちの１つに数学が用いられています。適性検査とはもともと企業組織内の人事異動に利用されており適材適所を把握するための手段とされていました。ところが近年では毎年のべ50万人の学生が受験しており、企業サイドが多数の応募者を絞り込むために適性検査が実施されています。

この適性検査は時間制限に比べると問題数は多いということから早めに対策を練って問題数をこなしておく必要があります。特に数学は頭の中で考えるのではなく、実際に手を動かして問題数を解かなければ身につきません。

そこでこの講義では、来るべき適性検査のために数学の問題を数多く実際に解く事で就職試験に備えることを目的とします。企業サイドの篩から落ちないようにするためには少しでも早く、そして少しでも多く手を動かすことが必要なのです。

【授業計画】

就職試験に頻繁に出題される問題を中心に解説した後、みなさんにどんどん問題を解いてもらいます。

・数と式、方程式
・関数とグラフ
・図形
・数的処理と知能問題
・集合と論理
・確率

ただし、皆さんの理解度に応じて講義の順序もしくは内容を変更する場合もあります。

【成績評価の方法】

・出席は一切とりません。
・期末試験および講義期間中に行う小テストをもとに総合的に評価します。

【テキスト】

特に教科書は指定しません。必要に応じて参考資料および問題を配布します。

【参考文献】

講義中に随時紹介していきます。

科目名			
経済学特講－日本経済入門			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期	2単位	伊代田光彦

か行

【講義概要・学習目標】

During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?

This lecture focuses on the following three points. First are the bright sides in the economy. Here we refer to the results of economic growth from various aspects: per capita income, spreading rate of durable goods, social security, etc.

Second are harmful side effects of the economic change. We here deal with environmental disruption, inflation, bubbles, stagnation, income distribution, etc.

Finally we deal with an ideal economy through an assessment of bright and gloomy sides of economic change during the past half century.

【授業計画】

1. Introduction
2. Historical Changes of the Japanese Economy
   (1) Facts
   (2) Reform and the beginning of strong growth
3. Rapid Economic Growth
   (1) General background
   (2) Positive effects
   (3) Negative effects
   (4) From the GNP-focused growthmanship to welfare- oriented society
4. Bubble Economy and its Consequence
   (1) Bubble ages (burst, triggering role of politics)
   (2) The process of bursting the bubble
   (3) Its consequence (bad loan, outstanding government bonds)
5. Income and Assert
   (1) Income and assert distribution
   (2) Typical household and pension scheme
6. Concluding Remarks (the quality of life)

*This is a slow lecture which covers chapters 1,2, 3,and 6.

【成績評価の方法】

Evaluation will be based on attendance (30 %) , and two papers (reports) (70%)

【テキスト】

Handouts will be provided.
Short reading series will be provided.

【参考文献】

Ito, Takatoshi (1992) .The Japanese Economy,chap. 3 , Massachusetts Institute of Technology
Tsuru, Shigeto (1993) .Japan's Capitalism, chap. 3 , Cambridge University Press.
Itoh, Makoto (2000) .Jappanese Economy Reconsidered, chap.4, Palgrave.

【備考】

英語による授業です

科　目　名			
経済学特講－日本の企業経営に学ぶ経済			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	中　野　瑞　彦

【講義概要・学習目標】
The purpose of this course is to study business policies and business management of Japanese companies. Business cases of Japanese big companies such as Sony Corporation and Toyota Motor Corporation which are representative of Japanese major industries will be discussed. We will try to recognize their success factors as well as failure causes and evaluate their business strategy.
All lectures will be done in English. Fairly good level of English ability is required. Attendants should read papers prior to lessons and understand key issues of business cases.

【授業計画】
Our aim is to analyze industrial structures and business management of particular companies in Japan. Tentative list of industries covering target companies are as follows;
1. Introduction (History of Japanese Business Industries)
2. Electric Industry
3. Automobile Industry
4. Chemical Industry
5. Financial Industry
6. Information Techonology Industry
7. Retail Sales Industry
8. Optical instrument Industry

【成績評価の方法】
Monthly short exams (presumably three times) and final exam. All answers should be written in English.

【テキスト】
Handouts will be provided.

【参考文献】
They will be indicated in the first lecture.

【備考】
英語による授業です

科　目　名			
経済学特講－日本の物流			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	野　尻　　亘

【講義概要・学習目標】
担当教員がその研究の専門とする日本における物流システムの空間的展開について講義をする。生産と消費をつなぐ物流がどのように変化してきたのか。高速道路・国際海上コンテナ輸送・国際航空貨物輸送がどのように展開してきたのかを具体的に説明する。また自動車部品をはじめ、ジャスト・イン・タイムによる物流システムの空間的展開について、紹介する。流通・物流関係に就職をめざす人には業界研究の一助となろう。

【授業計画】
1．物流と情報化、ロジステイクス
2．全国的な貨物流動パターン
3．宅配便の歴史
4．高速道路における交通流動
5．産業構造の転換と物流の変化
6．ジャスト・イン・タイムにおける自動車部品物流
7．国際物流　日本を中心とする国際航空貨物輸送
8．国際物流　日本を中心とする海上コンテナ貨物輸送　など

【成績評価の方法】
試験によって、成績評価を実施する。

【テキスト】
野尻亘『新版　日本の物流』古今書院

【参考文献】
授業中に、適時、紹介する。

科目名			
経済学特講―マクロ経済学と戦後日本経済			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	服部容教

【講義概要・学習目標】
Basic macroeconomic theory and the Japanese economy.

【授業計画】
1. Introduction to macroeconomics.
2. Measurement and structure of the national economy.
3. Basic framework for macroeconomic analysis.
The real economy, output, employment and investment.
Financial market, money and prices.
4. Historical performance of the Japanese economy in the 1950's, 1960's, 1970's, 1980's, and 1990's.

【成績評価の方法】
Estimation by the examinatiion at the end of the term.

【テキスト】
We do not use textbooks in the lecture.

【参考文献】
References are informed in the course of the lecture.

【備考】
英語による授業です

科目名			
経済学特別講義－戦後日本経済の光と影			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期	2単位	伊代田 光彦

【講義概要・学習目標】
During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?
This lecture focuses on the following three points. First are the bright sides in the economy. Here we refer to the results of economic growth from various aspects: per capita income, spreading rate of durable goods, social security, etc.
Second are harmful side effects of the economic change. We here deal with environmental disruption, inflation, bubbles, stagnation, income distribution, etc.
Finally we deal with an ideal economy through an assessment of bright and gloomy sides of economic change during the past half century.

【授業計画】
1. Introduction
2. Historical Changes of the Japanese Economy
   (1) Facts
   (2) Reform and the beginning of strong growth
3. Rapid Economic Growth
   (1) General background
   (2) Positive effects
   (3) Negative effects
   (4) From the GNP-focused growthmanship to welfare-oriented society
4. Bubble Economy and its Consequence
   (1) Bubble ages (burst, triggering role of politics)
   (2) The process of bursting the bubble
   (3) Its consequence (bad loan, outstanding government bonds)
5. Income and Assert
   (1) Income and assert distribution
   (2) Typical household and pension scheme
6. Concluding Remarks (the quality of life)
*This lecture covers whole chapters but focuses chapters 4, and 5.

【成績評価の方法】
Evaluation will be based on attendance (30 %), and two papers (reports) (70%)

【テキスト】
Handouts will be provided.
Short reading series will be provided.

【参考文献】
Ito, Takatoshi (1992). The Japanese Economy, chap. 3, Massachusetts Institute of Technology
Tsuru, Shigeto (1993). Japan's Capitalism, chap. 3, Cambridge University Press.
Itoh, Makoto (2000). Jappanese Economy Reconsidered, chap. 4, Palgrave.

【備考】
英語による授業です

か行

科　目　名			
経済学特講－英語で学ぶ戦後日本経済			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	Moghbel（モグベル） Zafar（ザファル）

【講義概要・学習目標】
This is an introductory course on the Japanese economy focused on the domestic aspects of postwar development. The purpose is to familiarize economics majors and non-majors with the basic framework of the present-day Japanese economy and some salient domestic economic events and developments that have determined the course of the nation's postwar economic progress. Lectures will cover key issues in each of the six postwar decades and will close with a speculative vision of Japan in the year 2020 with a focus on what role Japan can be expected to play in the global economy of the 21st century. Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. A high level of English comprehension is required.

【授業計画】
1. Overview of the Japanese economy today
* Statistical overview
* Dimensions of Japan's economic power and influence
* The unfolding demographic crisis
2. Phoenix risen from the ashes: rejoining the community of nations
3. Income-Doubling Plan and the era of accelerated economic growth
4. Limits to growth: environmental crisis and oil shocks
5. A season for Japan bashing and the logic of incremental adjustment
6. Plaza Accord and learning to live with "yen-daka"
7. Bubble economy: policy failure and irrational exuberance
8. Limits of Japan's postwar economic model and the lingering post-bubble crisis
9. Vision for Japan in 2020

【成績評価の方法】
Grades will be based on attendance, participation in class discussions, reports submitted and test results.

【テキスト】
Handouts will be provided.

【備考】
英語による授業です

科　目　名			
経済学特講－英語で学ぶ世界の中の日本			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	Moghbel（モグベル） Zafar（ザファル）

【講義概要・学習目標】
This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the status of Japan in the global economy and its basic international economic strategies and achievements in the postwar period. The purpose of this course is to familiarize economics and non-economics majors with Japan's basic policy framework for its international economic relations and to examine the course of Japan's progress from postwar reconstruction to global economic superpower.

Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. Therefore, a high level of English comprehension is required.

【授業計画】
1. The Japanese economy in the world economy today
* Statistical overview
* Japan's basic path of development in the global economy
* Challenges of globalization
2. Foreign trade: policies, strategies, achievements
3. Japan's international economic negotiations: 1985-1993
4. Balance of payments: secular trends, recent developments
5. Foreign investment: policies, strategies, achievements

【成績評価の方法】
Grades will be based on attendance, participation in class discussion, reports submitted and test results.

【テキスト】
Handouts will be provided.

【備考】
英語による授業です

科目名			
経済学特講－経済学検定試験対策講座A			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期	2単位	三原裕子

【講義概要・学習目標】

経済学検定試験（ERE）は経済学の実力を全国レベルで測る検定試験で、企業等における人事採用等の考課資料としても使われるようになってきました。EREでは100問中、ミクロ経済学、マクロ経済学が各25問ずつ出題され、この２科目で全体の半分を占めています。また、全て四答択一式ですが、実際に微分等を用いて計算を解く必要のある問題も出題されています。

そこで本講義では、特に過去においてEREで出題されたミクロ経済学の問題を解くことによって、実際にミクロ経済学の問題を解く力を養うことを目的とします。よって実際に数多くの問題を解いてもらう事になりますが、基礎知識がなければ当然解く事はできません。ところが、講義中にミクロ経済学を基礎から全てフォローすることは出来ませんので、必要最低限の予習および復習は行うようにして下さい。

【授業計画】

講義を進めていく中で若干の変更はあると思いますが、基本的な計画は以下の通りです。

1．経済数学
2．ミクロ経済学の復習
3．問題演習および解説

【成績評価の方法】

・出席は一切とりません。
・期末試験および講義期間中を通じた上達度を考慮した上で評価します。

【テキスト】

特に教科書は指定しません。必要に応じて参考資料および問題を配布します。

【参考文献】

講義中に随時紹介していきます。

科目名			
経済学特講－経済学検定試験対策講座B			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期	2単位	三原裕子

【講義概要・学習目標】

経済学検定試験Aに続き、本講義ではマクロ経済学を中心に過去にEREにおいて出題された問題を数多く解いていきます。ミクロ経済学同様にマクロ経済学の問題も実際に微分等の計算を用いて問題を解く事が要求されます。

本講義は問題を解くことを中心としますので、講義中に必要に応じてマクロ経済学の概略を述べた上で実際に問題を解いてもらいます。よってマクロ経済学の基礎を全て解説する事は出来ませんので、必要最低限の予習および復習は必ず行うようにして下さい。

【授業計画】

講義を進めていく中で若干の変更はあると思いますが、基本的な計画は以下の通りです。

1．経済数学
2．マクロ経済学の復習
3．問題の演習および解説

【成績評価の方法】

・出席は一切とりません。
・期末試験および講義期間中を通じた上達度を考慮した上で評価します。

【テキスト】

特に教科書は指定しません。必要に応じて参考資料および問題を配布します。

【参考文献】

講義中に随時紹介していきます。

科　目　名			
経済学特講－現代日本経済の統計分析			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	荒　木　英　一

【講義概要・学習目標】
This is an introductory course of statistical analyses with a special focus on the current Japanese economy. The first three classes will be dedicated to elementary lectures of econometrics and how to use statistical software. Then, in each class, we will choose one topic on the Japanese economy, for which I will give you a general explanation and you will carry out an econometric analysis according to my guidance. The purpose of this course is to cultivate your understanding of the Japanese economy and to provide you with some general analytical techniques through the practice of statistical analyses.
Lectures will be conducted in English. A fairly good level of English ability is required.

【授業計画】
1. An introduction to descriptive statistics
2. An introduction to regression analysis
3. An introduction to statistical inferences
4. An overview of the current Japanese economy
5. Looking at the projection of Japan's trade surpluses based on past trends
6. The issue of unemployment especially among the young people
7. Changes in employment practice that affect Japanese employers and employees
8. Changes in the relationship between large and small companies
9. The lost decade -- the impact of bad debts on the Japanese economy and the lessons that have been learnt
10. The Japanese economy as a consequence of the globalization

【成績評価の方法】
Attendance (40%) and the final examination (60%).

【テキスト】
Handouts will be provided.

【備考】
英語による授業です

科　目　名			
経済学特講－日中ビジネス論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	藤　田　　香

【講義概要・学習目標】
本講義は、日本を代表する金融機関の一つである三菱東京UFJ銀行からの講師派遣によるインテグレーション講座である。「金融機関からみる中国ビジネス」をテーマとし、ますます結びつきが強まる日中間のビジネス事情と、それに関連する諸制度についての解説を行う。

講義ではまず、銀行業務および銀行周辺業務の概説を行い、金融機関に対する理解を深めることから始める。その後、日中貿易の現状や日系企業の中国への進出状況など、日系企業と中国とのかかわりについて講義を進める。中国における手形決済や為替の問題など金融業界をとりまく諸事項についても説明をする。

本講義の講師陣は、銀行業務あるいは中国ビジネスに関わっている現役実務家である。実務家の視点から生きた経済を語っていただくことにより、中国の経済やビジネスに関心のある学生はもちろん、広く金融業界に関心のある学生にも興味が持てる内容となろう。

【授業計画】
以下のような内容を予定している。ただし、講師その他諸般の事情により変更されることがある。

1. ガイダンス
2. 地域社会と中国のかかわり
3. 銀行業務概観
4. 銀行の周辺業務について
5. 日中貿易の現状
6. 中国のお金と決済手段
7. 中国の金融機関について
8. 人民元為替レートの話
9. 日系企業の中国への進出状況
10. 外資企業の進出と中国の受入態勢
11. 外資企業のマネジメントについて
12. 中国ビジネスに関連する社会制度について
13. 中国ビジネスのリスクについて
14. 世界における日系企業の活動状況

【成績評価の方法】
レポート、期末試験等により、総合的に評価する予定である。
受講生の人数により、評価方法を若干変更する場合がある。

【テキスト】
なし。

【参考文献】
必要に応じて、適宜紹介する。

科目名			
経済学特講－ファッション産業論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	通期	4単位	富澤修身

【講義概要・学習目標】
消費や消費社会についての議論が盛んである。過剰生産と過剰消費が大きな問題となっている。この２つの過剰の組み合わせは、きわめて現代的課題である。しかも過剰消費が、個々人レベルでの豊かさに結びつかないだけでなく、地球社会レベルでは解決の急がれる大問題を生み出している。生産し、消費すれば、豊かになれる、幸せになれるという大前提を再検討しなければならない状況に立たされているといえよう。経済学や経営学からの従来の研究は、生産中心でもよかったが、現代の問題状況は、もはやこれでは不十分である。生産と消費を同時に扱う必要がある。豊かさの欠如（感）という点では、人間の欲求を扱う必要がある。経済学に美の視点を取り入れる必要がある。それゆえ、大きく構えれば、「消費と美」の領域に分け入るために、ソーシャルサイエンスとヒューマンサイエンスの両視点を踏まえる必要がある。以上のような問題意識を踏まえて、ファッション産業論を講義する。

【授業計画】
1．社会、衣服、ファッションビジネス
2．資本主義社会における消費
3．衣服の変化とファッション現象
4．20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化
5．世界繊維産業の見取り図
6．３大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容
7．日本のファッション産業システム
8．ファッション産業システムの情報化
9．ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動
10．縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部
11．ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業
12．都市生活のファッション化とファッションビジネス創造
13．繊維アパレル産業と社会的責任
14．終章

【成績評価の方法】
定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。受講者数が少ない場合は、変更の可能性有り。

【テキスト】
富澤修身著『ファッション産業論』（創風社、2003年）

【参考文献】
なし

科目名			
経済学入門［編入生用］			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	通期	4単位	一ノ瀬　篤

か行

【講義概要・学習目標】
経済に関する基礎知識を身につけることを目標とする。経済学の書物・講義は「入門」と銘打っていても、とんでもなく難しいものが多い。考察対象の性格上、仕方ないのだが、このことを十分意識して、素朴に、常識を発展させて問題を考えるという形で、かみ砕いて説明したい。
毎回レジメを配布し、これに基づいて話をする。ただ、受講者が少人数となることが予想されるので、一方的講義形式ばかりではなく、レジメをもとに講義者が短く説明して後は、質問や、受講者の意見表明を受けるなど、できるだけ対話型になるよう、配慮する。講義の具体的内容は、［授業計画］を参照。

【授業計画】
（1）経済生活の基礎：生産、消費・貯蓄
（2）経済体制：封建制度、資本主義制度、社会主義制度
（3）経済の成長と停滞
（4）国民所得統計の見方
（5）投資と貯蓄の関係：景気変動の最重要要因
（6）輸出と輸入
（7）国際収支と為替相場
（8）金融および金融政策の役割
（9）証券市場の役割（株式市場、債券市場）
（10）税金と国債（国の借金）

【成績評価の方法】
講義中の質問・発言と出席を重視。また、獲得知識を確認するために、折々小テストを行い、この結果を適宜、加味する。

【参考文献】
教科書は特に用いない。上記のように、講義レジメを毎回、配布する。参照すべき書物は、講義の中で、折々紹介する。

科　目　名			
経済学のための数学入門			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	藤　間　　真

【講義概要・学習目標】

経済学部で数学が重要だということを聞いて驚いている人は多いと思います。しかし、小中高で学ぶ数学は数学という学問の一部です。そして、指導要領に縛られ受験の圧力にさらされているため決して健全な形でもわかりやすい形でもありません。さらに、経済学で必要となる数学は受験テクニックではなく、高校までの数学ではあまり重きを置かれていない「言語」としての数学です。

ですから、入試で必要となるテクニックなどを除外し広い視野で見ることと、受験準備ではなく基本的な問題演習を繰り返すことで今まで苦手に思ってきた諸君にも経済学部で要求される数学の基礎が提供できるはずです。この講義の目的はそのような、高いレベルから小中高の数学を見直し、整理すると同時に更なる高みを目指すことにあります。

自己充足的な講義を目指すので、小中高の数学の知識をも復習しながら進む予定ですから小中高で数学を苦手にした諸君でもそのことで恐れることはありません。しかし、受験テクニックは扱いませんし、高校までの数学とは違う視点での数学を講義しますので、自分の頭を使い手を動かして考えることも必要になってきます。

なお、2006年３月に高等学校を卒業した学年から小学校～高等学校の指導要領の改訂があったことを受けて、2005年度以前の同名の科目に若干の変更を予定しています。

【授業計画】

★オリエンテーション
★中学数学の復習
・数と式の復習
・一次方程式
・二次方程式
・連立方程式

★関数と微分
・いろいろな関数
・微分の概念
・いろいろな関数の微分
・微分の応用
・多変数関数

★行列とベクトル
・表と行列
・ベクトル
・連立方程式への応用
・産業連関表への応用

【成績評価の方法】

学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。詳細はオリエンテーション時に説明します。

【テキスト】

竹之内 脩（著）経済・経営系数学概説　新世社

【参考文献】

数学入門. 遠山啓著. 岩波書店、岩波新書
大道を行く高校数学 代数・幾何編、橘　謙他著、現代数学社
大道を行く高校数学 解析編、　　安藤洋美著、現代数学社
大道を行く高校数学 統計数学編、　安藤洋美著、現代数学社
大学新入生のための数学入門、 石村園子著、共立出版
やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分、石村園子著、共立出版

その他は進行状況に応じて指示します。

【備考】

受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていてください。

科　目　名			
経済原論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	通期	4単位	服　部　容　教

【講義概要・学習目標】

マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の後半には日本経済の現実について理論との関係を明らかにする。

【授業計画】

１．マクロ経済学の基本概念
　GDP,　GDPデフレーター、失業率、インフレーション
２．財市場の均衡：GDPの構成、消費、投資、政府支出、純輸出、均衡算出量の決定
３．金融市場：貨幣需要、マネーサプライ、貨幣政策、利子率の決定

【成績評価の方法】

レポート、学期末の試験の成績を総合的に判断する。

【テキスト】

テキストは使用しないけれども適宜読まなければならない文献は指示する。

【参考文献】

授業中に指示する。

科目名			
経済原論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	通期	4単位	森　誠

【講義概要・学習目標】
近代経済学のマクロ経済を講義します。
まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。
マクロ経済学の基本部分を解説しますので、初めて経済学を学ぶ方も理解できるはずです。
なお、近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で基本から解説します。そして、慣れるために、ほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも１年後にはずいぶん慣れているはずです。

【授業計画】
１、GDPと３面等価の原則
２、実質と名目
３、ISバランス
４、GDP決定論の基礎
５、均衡予算定理
６、IS曲線
７、LM曲線
８、財政政策と金融政策の効果

【成績評価の方法】
年度末試験

【テキスト】
工藤・井上・金谷『マクロ経済学』東洋経済.

【参考文献】
惣宇利紀男、服部容教『21世紀の経済政策』日本評論社. 吉川洋『マクロ経済学』岩波, ケインズ派の立場によるマクロ経済学.
その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

【備考】
講義はテキストの章どおりには進まない。講義内容と関連する章を指摘する。

科目名			
経済原論ＩＡ―１			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	4単位	田中　悟

か行

【講義概要・学習目標】
ミクロ経済学の基礎的な理論の概説を通じて、家計・企業といった経済主体の意思決定や市場メカニズムの機能に関する経済理論について学び、こうした理論がどのように応用できるかについて考える。講義は単に理論の概説だけでなく、身の回りの様々な経済現象が経済理論によっていかにとらえられるかという点を意識しながら進められる。これを通じて経済現象に対する「経済学的な見方」を養うことが、本講義の目的となる。

【授業計画】
講義はおおむね以下の順序で行われる予定である。
序章　イントロダクション：ミクロ経済学とは？
第１章 価格メカニズムとは？
第２章 消費者・企業の行動と需要・供給概念
第３章 価格メカニズムの意義
第４章 私的独占の効果
第５章 市場の失敗と公共政策の役割
第６章 経済主体の相互依存関係とその効果
第７章 不確実性と情報の経済学

【成績評価の方法】
授業中に課す数回の宿題ないしは小テスト（30%）と講義末に行われる定期試験（70%）の結果を総合評価する。

【テキスト】
伊藤元重（2003）『ミクロ経済学（第２版）』日本評論社。

【参考文献】
１．伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』（日本経済新聞社）
２．マンキュー著・足立/小川/中馬/石川/地主/柳川訳『マンキュー経済学（１）ミクロ編』（東洋経済新報社）
３．スティグリッツ著・薮下/秋山/金子/木立/清野訳『入門経済学』『ミクロ経済学』（東洋経済新報社）
４．ヴァリアン著・佐藤訳『入門ミクロ経済学』（勁草書房）

科　目　名			
経済原論ＩＡ―１			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	春学期集中	4単位	中　村　勝　之

【講義概要・学習目標】
経済学の究極の目的は、国や地域など、ある基準で区切られた経済単位全体の振舞（パフォーマンス）を眺めることにある。その際ミクロ経済学は、経済活動に参加する主体（我々消費者や将来就職するであろう生産者）の「目的合理性」にかなった行動を前提にする。例えば、自分が就職したいと思っている会社が正規従業員の採用を手控え、フリーターなどの臨時従業員の増員を計画している話を聞きつけたとする。このとき、どういう基準でどう自分が振舞えばいいのか。これがミクロ経済学を学習する上で、一番身につけるべきセンスである。
そこでこの講義はミクロ経済学の基礎について、経済主体の目的合理性に重点を置きながら解説していく。なおこの講義は必要に応じて数学を導入して行くので、その辺りの覚悟だけはして受講に臨んで頂きたい。

【授業計画】
※以下の順序で講義をしていく予定である。
①ガイダンス:学習目標および成績評価の提示
②経済数学「超」入門
③経済主体の目的合理性（１）　－消費者行動
④経済主体の目的合理性（２）　－生産者行動
⑤完全競争市場の基本構造
⑥不確実性下の意思決定
⑦非対称情報の下での保険の役割

【成績評価の方法】
①講義中に行われる「小テスト」（５回程度実施）
②講義期間中頃に行われる「中間テスト」
③最終講義時に行われる「期末テスト」
※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールで評点を算出し、必要に応じた加点措置を行う。ただしこの加点措置の中に、いわゆる「出席点」はない。

【テキスト】
使用しない。適宜資料（レジュメ）を配付する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

【備考】
試験情報などはホームページ（http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura）を参照すること。

科　目　名			
経済原論ＩＡ―１			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03	秋学期集中	4単位	矢　根　眞　二

【講義概要・学習目標】
コンパクトな入門レベルのミクロ敬愛学教科書に従いつつ，その演習問題や参考文献等の関連問題をスムースに解けるようになることを目標にした講義です。
特徴は，受講生の大半が就職希望であることから，最初に経済学の基本である競争経済モデルを復習し，多変数を扱う一般均衡モデルはスキップして，日常のビジネスとの関わりが強いゲームと情報の基本モデルの学習に時間を割く点です。ですから実際に日々の「日経新聞」などを賑わす現実の経済記事に関心を持ち，それらを「経済学的に考えてみたい」という意欲的な受講者を歓迎します。特に経済学基礎理論Aや経済数学関連の知識が十分であれば，非常に効率的な学習ができるでしょう。
ただし学習する経済モデルは，論理や数式の積み重ねですから，講義の前に該当する教科書の対応部分を読み，自分の頭で実際に練習問題を解いてみる習慣の有無が講義の理解のカギになりますから，自分の自己管理力と相談して履修して下さい。

【授業計画】
●最初の数回で講義の進め方・学習法や試験の形式・成績評価法等の履修情報を説明した後，教科書に沿って以下のような順序で講義を進める予定です。これらの内容項目の詳細については開講時の教員サイトを参照して下さい。
http://rio.andrew.ac.jp/~yane/

---------- 1　競争と独占 ----------
1　完全競争市場の基本モデル（教科書１章）
2　競争市場の消費者の選択と需要（教科書２章）
　補【Math-３】主体均衡モデルの基礎
3　競争市場の生産者の選択と供給（教科書３章）
4　競争市場の資源配分の効率性（教科書４章）
5　供給独占モデル（教科書９章）

---------- 2　ゲーム・情報と戦略・誘因 ----------
6　ゲーム的状況での選択（教科書10章）
7　市場の失敗と経済政策の基礎（教科書11章）
8　リスクのある状況での選択（教科書12章）
9　情報の非対称性と誘因整合性（教科書13章）

【成績評価の方法】
●試験得点合計等の６割以上が合格ラインの原則です
●授業中の課題・質疑・態度等を考慮する場合もあります
●試験終了後のリポート等の予定はありません
●追試験は，公開している過去の定期試験の問題や形式とは大きく異なることがあります

【テキスト】
●伊藤元重（2003）『ミクロ経済学』日本評論社　3000
特別な予備知識がなくとも読める入門レベルのテキストですから，これだけは事前に読み練習問題をこなしておくのが最も効率的な学習法です。講義ではその中でも難解な第２部はスキップする一方で，第１・３部に関しては基本モデルの解説に重点をおくことによって演習問題等を自ら解けるレベルに到達することを目指します。

【参考文献】
●佐々木宏夫（2005）『経済数学入門』日経文庫 830　→高校でも大学でも微分の概念を理解していない場合のみ，少なくとも64頁ぐらいまでの自習が講義の理解に必要です
●三土修平（2005）『はじめてのミクロ経済学』日本評論社 2700　→　掲載されている過去の公務員試験問題の幾つかを本講義のProblem Set の中でも取り上げ解説します

科目名			
経済原論ＩＡ—２			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	4単位	森　誠

【講義概要・学習目標】
近代経済学のマクロ経済学を講義します。
まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。
近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも１年後にはずいぶん慣れているはずです。

【授業計画】
１、GDPと３面等価の原則
２、実質と名目
３、ISバランス-貿易黒字と貯蓄-
４、GDP決定論の基礎
５、均衡予算定理
６、IS曲線
７、LM曲線
８、財政政策と金融政策の効果
９、リカード命題

【成績評価の方法】
年度末試験

【テキスト】
特になし

【参考文献】
・工藤・井上・金谷『マクロ経済学』東洋経済.惣宇利紀男、服部容教編『21世紀の経済政策』日本評論社.吉川洋『マクロ経済学』岩波,ケインズ派の立場によるマクロ経済学.
その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

科目名			
経済原論ＩＡ—２			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	春学期集中	4単位	伊代田　光　彦

か行

【講義概要・学習目標】
近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。
経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。
もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくり進めていくつもりである。

【授業計画】
各章３～４回
１　マクロ経済学への導入
２　国民所得の概念
３　国民所得の決定とその応用
４　貨幣分析
５　国民所得の変動（変動と成長）
６　マクロ経済政策（総需要管理政策）
＊　時間に余裕があれば、７章（テキスト）以降についても講義する。

【成績評価の方法】
学期末試験（60%）、レポート（２回、30%）および出席（２-３回、10%）を総合して評価する。

【テキスト】
伊代田光彦著『マクロ経済学』(法律文化社、2003年)

【参考文献】
サムエルソン（著）『経済学（第13版上)』(岩波書店、1992年)

科　目　名			
経済原論ＩＡ―２			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03	秋学期集中	4単位	中　村　勝　之

【講義概要・学習目標】
経済学の究極の目的は、国や地域など、ある基準で区切られた経済単位における振舞（パフォーマンス）を眺めて行くものである。その際マクロ経済学は、経済全体の構成諸要素を記述する「集計関数」を前提にする。その理由は次の例を考えると分かりやすい。
例えば、あなたのご両親がリストラの危機に直面しているとする。このときあなたはアルバイトをして家計を支えようとするだろうし、同時に支出を極力控えようとするだろう。この「支出を手控える」という行為が大多数の消費者が同時に行えば、経済全体の消費需要が冷え込む。それが企業収益の悪化を引き起こすので、企業側の対応とすれば、よりリストラを強化する方向にシフトするだろう。これは直ちにご両親のリストラの可能性が拡大したことを意味する。つまりリストラの可能性に対する対応が、却ってより厳しいリストラの危機に直面してしまうのである。これがいわゆる「合成の誤謬」である。
そのでこの講義はマクロ経済学の基礎に関して、「マクロ経済政策の有効性」という観点から大胆かつ平易に（?）解説していく。なお、必要に応じて数学を利用して行くので、この点だけは覚悟の上で受講に臨んで頂きたい。

【授業計画】
※以下の順序で講義をしていく。
①ガイダンス:学習目標と成績評価を提示
②経済数学「超」入門
③GDPとは？
④主要関数について
⑤45度線分析とIS-LM分析
⑥労働市場とAD-AS分析
⑦インフレ予想と失業
⑧経済成長理論

【成績評価の方法】
①講義時間中に行われる「小テスト」（５回程度実施）
②講義期間中頃に行われる「中間テスト」
③最終講義時に行われる「期末テスト」
※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算し、必要であれば加点措置を行う。なおこの加点措置に、いわゆる「出席点」は入らない。

【テキスト】
使用しない。適宜資料（レジュメ）を配付する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

【備考】
試験情報などはホームページ（http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura）を参照すること。

科　目　名			
経済原論ＩＢ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	春学期集中	4単位	松　尾　　純

【講義概要・学習目標】
「現存社会主義」の崩壊とその後の資本主義経済への「復活」、中国共産党の推進する「市場社会主義」建設。これらの事態は、マルクスが構想した社会主義社会とはどのようなシステムであったのか、そして、それは人類が求める理想社会を実現するものであるのか、という問題を我々に投げかけている。
他方、ソ連・東欧の「現存社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義も、21世紀に入ってますますその行方は不透明となりつつあり、現存の資本主義社会は人間に幸福をもたらしているとは必ずしもいえない状況が続いている。
本講義では、このような問題状況を解決する糸口を得るために、百数十年前に資本主義批判と社会主義の実現を目指して誕生したマルクス経済学の新世紀における”再構築”を目指す。そのため、従来科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていく。

【授業計画】
［講義計画］
（前半）（５回程度）。
1．講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
2．マルクス・エンゲルスのいわゆる「唯物史観」とは何か。
3．労働疎外論とは何か。
4．マルクス・エンゲルス共著の『共産党宣言』には何が書かれているか。
5．マルクスが描いた社会主義像とソ連・東欧の「社会主義」の歴史。
（後半）（各項目１回で進めていって20回程度）
1．経済学の対象と方法。
2．商品論Ⅰ。
3．商品論Ⅱ。
4．貨幣論Ⅰ。
5．貨幣論Ⅱ。
6．貨幣の資本への転化論。
7．資本の本源的蓄積。
8．剰余価値論Ⅰ。
9．剰余価値論Ⅱ。
10．資本蓄積論Ⅰ。
11．資本蓄積論Ⅱ。
12．資本の流通過程。
13．利潤論Ⅰ。
14．利潤論Ⅱ。
15．商業資本論。
16．信用論Ⅰ
17．信用論Ⅱ。
18．地代論。
19．講義の総括。

【成績評価の方法】
成績の評価は、基本的に学期末試験の結果にもとづいて行う。
受講者数が適度な限度内であれば、授業時間内に小テスト等を行って成績評価の参考とする。出席率は一切考慮しない。

【テキスト】
講義概要の趣旨から理解されるように、市販の教科書等は使用しない。代わりに、可能であれば、講義要旨・参考資料等を配布するよう努力する。

【参考文献】
参考書は授業時間中に適宜お知らせします。

科目名			
経済原論ＩＢ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	秋学期集中	4単位	滝田和夫

【講義概要・学習目標】

マルクスの経済学について講義する。そこでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。使用テキストは平明に書かれているので、事前に一読しておくと講義が理解し易いであろう。

【授業計画】

Ⅰ．経済学の対象と方法
Ⅱ．市場経済
　１．商品経済
　２．貨幣経済
Ⅲ．資本とその増殖
　１．貨幣の資本への転化
　２．絶対的剰余価値の生産
　３．相対的剰余価値の生産
Ⅳ．価格と利潤
Ⅴ．資本の再生産と蓄積
　１．資本の蓄積過程
　２．社会的総資本の再生産過程
　３．利潤率の傾向的低下法則

【成績評価の方法】

試験の成績による。試験の回数や出席をとるかどうかは受講者数をみて決める。

【テキスト】

平井・北川・滝田（共著）『経済原論』（有斐閣）

【参考文献】

置塩信雄（著）『マルクス経済学』筑摩書房
森嶋通夫（著）高須賀義博（訳）『マルクスの経済学』（東洋経済新報社）

科目名			
経済原論Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	伊代田光彦

【講義概要・学習目標】

次の２つの問題に焦点をあてて講義を進める。

近年、所得・資産分配の格差に関する関心が高まっている。停滞経済の下で 所得の伸びが期待できず、しかも高齢化社会が迫りくる状況の中では、強い関心だけでは済まされない問題である。分配に関する問題を理論、日本の実態、政策の３つの側面から総合的に明らかにする。

1970年代のスタグフレーションの中で、ケインズ経済学の有効性が疑問視されるようになり、マクロ経済理論は混迷の時代を迎えた。この中から誕生した反ケインズ派経済学について概説するとともに、その評価を行う。一方、その後誕生した新ケインズ派理論、新古典派の新しい理論展開についても時間の許すかぎり概説し、その評価を行う。

必要に応じて基礎的な理論の説明も行い、できる限りゆっくり講義を進めていく。板書により分かり易い講義を行うつもりであるが、受講は二回生以上が望ましい。

【授業計画】

Ⅰ　所得分配（理論、実態および政策）
　1　はじめに
　2　所得分配の基礎理論
　3　所得分配率
　4　人的分配の分析概念
　5　所得・資産分配の実態
　6　分配に関する政策の現状と問題点
Ⅱ　マクロ経済学の潮流
　1　ケインズ経済学
　　国民所得の決定とその応用、貨幣分析、ケインズ政策
　2　反ケインズ派経済学
　　フリードマンの新貨幣数量説、合理的期待形成学派、供給重視の経済学
　＊　時間に余裕があれば、その後のマクロ経済学の展開（新ケインズ派理論、新古典派リアル・ビジネスサイクル理論）について講義する。

【成績評価の方法】

学期末試験（60%）、レポート（２回、30%）および出席（２-３回、10%）を総合して評価する。

【テキスト】

伊代田光彦著『マクロ経済学』（法律文化社、2003年）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で指示する。

科　目　名			
経済情報処理演習Ｉａ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	秋学期	2単位	麻　生　憲　一

【講義概要・学習目標】
あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【授業計画】
1．表計算ソフト基本操作のまとめ
2．マクロの自動記録機能
3．プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4．プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5．複利計算プログラムの作成
6．データ型の設定
7．データ整列プログラム
8．データ探索プログラム
9．計算とプログラムの効率化
10．金融計算プログラムの作成
11．計測と制御
12．C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】
出席、レポート、講義課題の達成度に応じて評価する。

【テキスト】
使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】
授業中、その都度指示をする。

科　目　名			
経済情報処理演習Ｉａ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03 04	秋学期	2単位	村　松　郁　夫

【講義概要・学習目標】
あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Application) をもちいたプログラム作成演習を行います。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象とします。

【授業計画】
1．表計算ソフト基本操作のまとめ
2．マクロの自動記録機能
3．プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4．プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5．複利計算プログラムの作成
6．データ型の設定
7．データ整列プログラム
8．データ探索プログラム
9．計算とプログラムの効率化
10．金融計算プログラムの作成
11．計測と制御
12．C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】
実習課題の提出状況、内容により評価します。

【テキスト】
毎回、実習を進めるのに必要な資料、課題などを配布するので、教科書は指定しません。

【参考文献】
Microsoft社のExcelを利用するので、受講者が利用している参考書が、講義計画に関する内容を含んでいるならば、それを参考書としてもらってかまいません。
なお、コンピュータに関する書籍は改訂のスピードが速いので、開講時に紹介します。

【備考】
経済情報処理演習Ｉｂ（春学期）を修得済みの人向けの授業です。

科　目　名			
経済情報処理演習Ｉａ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
05	秋学期	2単位	義　永　忠　一

【講義概要・学習目標】
あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【授業計画】
1．表計算ソフト基本操作のまとめ
2．マクロの自動記録機能
3．プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4．プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5．複利計算プログラムの作成
6．データ型の設定
7．データ整列プログラム
8．データ探索プログラム
9．計算とプログラムの効率化
10．金融計算プログラムの作成
11．計測と制御
12．C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】
講義中における課題作成を中心に評価します。
講義期間中に、小テストを数回実施します。

【テキスト】
プリントを配布します。

【参考文献】
その都度、指示します。

科　目　名			
経済情報処理演習Ｉａ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
06	秋学期	2単位	井　田　憲　計

【講義概要・学習目標】
あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic For Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。
表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【授業計画】
1．表計算ソフト基本操作のまとめ
2．マクロの児童記録機能
3．プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4．プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5．複利計算プログラムの作成
6．データ型の設定
7．データ整列プログラム
8．データ探索プログラム
9．計算とプログラムの効率化
10．金融計算プログラムの作成
11．計測と制御
12．Ｃ言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】
出席、講義時間中の課題提出（不定期）、
講義時間外の中間レポート（１回程度）、期末課題（最終講義時）を総合して評価を行う。

【テキスト】
特に指定しない。講義用のWebサイト（ホームページ）を利用し、必要に応じてプリント等を配布する。

【参考文献】
適宜指示する。

科　目　名			
経済情報処理演習Ｉｂ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期	2単位	麻　生　憲　一

【講義概要・学習目標】
経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【授業計画】
1．新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2．行政機関の経済情報へのアクセス
3．統計資料・調査レポートへのアクセス
4．地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5．経済統計データとは
6．経済統計データの検索と入手
7．経済統計データの整理・グラフ化
8．記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9．国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】
出席、レポート、講義課題の達成度に応じて評価する。

【テキスト】
使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】
授業中、その都度指示をする。

科　目　名			
経済情報処理演習Ｉｂ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03 04	春学期	2単位	村　松　郁　夫

【講義概要・学習目標】
経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行います。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマです。

【授業計画】
1．新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2．行政機関の経済情報へのアクセス
3．統計資料・調査レポートへのアクセス
4．地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5．経済統計データとは
6．経済統計データの検索と入手
7．経済統計データの整理・グラフ化
8．記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9．国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】
実習課題の提出状況、内容により評価します。

【テキスト】
毎回、実習を進めるのに必要な資料、課題などを配布するので、教科書は指定しません。

【参考文献】
Microsoft社のExcelを利用するので、受講者が利用している参考書が、講義計画に関する内容を含んでいるならば、それを参考書としてもらってかまいません。なお、コンピュータに関する書籍は改訂のスピードが速いので、開講時に紹介します。

【備考】
経済情報処理演習Ｉａ（秋学期）とセットで履修することをお勧めします。

科目名			
経済情報処理演習Ｉｂ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
05	春学期	2単位	義永忠一

【講義概要・学習目標】
経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【授業計画】
1．新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2．行政機関の経済情報へのアクセス
3．統計資料・調査レポートへのアクセス
4．地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5．経済統計データとは
6．経済統計データの検索と入手
7．経済統計データの整理・グラフ化
8．記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9．国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】
講義中における課題作成を中心に評価します。
講義期間中に、小テストを数回実施します。

【テキスト】
プリントを配布します。

【参考文献】
その都度、指示します。

科目名			
経済情報処理演習Ｉｂ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
06	春学期	2単位	井田憲計

【講義概要・学習目標】
経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。
インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【授業計画】
1．新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2．行政機関の経済情報へのアクセス
3．統計資料・調査レポートへのアクセス
4．地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5．経済統計データとは
6．経済統計データの検索と入手
7．経済統計データの整理・グラフ化
8．記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9．国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】
出席、講義時間中の課題提出（不定期）、講義時間外の中間レポート（１回程度）、期末課題（最終講義時）を総合して評価を行う。

【テキスト】
特に指定しない。講義用のWebサイト（ホームページ）を利用し、必要に応じてプリント等を配布する。

【参考文献】
適宜指示する。

科　目　名			
経済情報処理演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	荒　木　英　一

【講義概要・学習目標】
経済分析におけるコンピュータ活用法について、演習を行う。
前半は、基本的で標準的なプログラミング技法を中心に、ソフトウェア間の連携や統計データ検索なども含めて、やや技術的な側面に重点をおいた演習を行う。後半は、前半で修得した技法を応用して、データ解析とシミュレーションを中心に演習をすすめていく。いくつかのテーマについては、十分実用的に使いこなせる（役立つ）レベルまで、こだわって掘り下げてみよう。
実習環境は、当面（少なくとも前半は)、Windowsベースで R などのフリーソフトを中心に進めていく予定。後半は、受講者数や進度に応じて、適宜に調整する。

【授業計画】
変数、ベクトル、マトリクス
反復処理、条件分岐、関数、ライブラリ
乱数、確率変数と確率分布
人生で役にたつ（かも知れない）計算いろいろ
記述統計の手法、景気動向指数や産業連関分析
企業財務データなどを用いた統計分析と多変量解析入門
動学モデルのシミュレーション

などなど

【成績評価の方法】
授業中の課題提出と最終講義日に行う学期末試験による。

【テキスト】
使用しない。プリントを配布する。2005年度講義資料は
http://rio.andrew.ac.jp/araki/comp05.html
を参照のこと。

【参考文献】
「はじめての S-PLUS/R 言語プログラミング」竹内俊彦（オーム社）ほか。

科　目　名			
経済情報処理論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	井　田　憲　計

【講義概要・学習目標】
経済学部生のための情報処理基礎を講義する。
つまり、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みを中心に情報処理の基礎知識を解説するとともに、あわせて、経済学におけるコンピュータ利用の現状と可能性について概説する。

【授業計画】
1．コンピュータとは（コンピュータの種類、パーソナルコンピュータの機能）
2．情報社会とコンピュータ
3．コンピュータによる情報の表現
4．コンピュータによる計算の仕組み
5．コンピュータによる情報処理の仕組みと構成装置
6．パーソナルコンピュータの仕組み
7．ソフトウェアの構成
8．オペレーティングシステム
9．パソコン用ソフトウェア
10．コンピュータ・ネットワーク
11．学内の情報環境について
12．経済学の研究・学習とコンピュータ１（インターネット資源の活用）
13．経済学の研究・学習とコンピュータ２（統計処理）
14．経済学の研究・学習とコンピュータ３（シュミレーション）
15．プログラミング言語の種類と特徴
16．アルゴリズムと流れ図
17．プログラミングの基礎１（データの型と構造）
18．プログラミングの基礎２(効率的アルゴリズムの選択と設計)
19．プログラミング１（データの整列法）
20．プログラミング２（線形探索と二分探索法）
21．計測と制御
22．経済学とコンピュータ

【成績評価の方法】
出席、講義時間中の小レポート（不定期)、
講義時間外の中間レポート（１回程度)、期末試験、を総合して評価を行う。

【テキスト】
特に指定しない。講義用のWebサイト（ホームページ）を利用し、必要に応じてプリント等を配布する。

科　目　名			
経済数学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	藤　間　　真

【講義概要・学習目標】

小中高と学んでくるうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。

しかし、ベストセラーとなった『分数のできない大学生』の共著者の一人である西村教授が経済学者であることを例に取るまでもなく、数学は経済学と無縁の学問ではありません。むしろ基本的な見方を提供してくれる道具です。

本講では、指定教科書に沿って、経済学への応用を視野に入れながら、下記の項目について説明した後に問題演習を行ないます。実際に手を動かして問題に取り組むことが必須の条件となります。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていてください。

【授業計画】

・グラフの応用
・関数
・微分
・行列とベクトル

進行状況によっては他の事項も扱う。

【成績評価の方法】

学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。

【テキスト】

入門・経済数学（上）、E.ドゥリング著、大住栄治他訳、シーエーピー出版

【参考文献】

入門・経済数学（下）、E.ドゥリング著、大住栄治他訳、シーエーピー出版
『大道を行く高校数学 代数・幾何編』橘　謙他著、現代数学社
『大道を行く高校数学 解析編』　安藤洋美著、現代数学社
『大道を行く高校数学 統計数学編』　安藤洋美著、現代数学社
『経済学のための数学入門』　神谷他著、東京大学出版会

その他は進行状況に応じて指示する。

科　目　名			
経済政策			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	津　田　直　則

か行

【講義概要・学習目標】

講義概要：経済政策は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野である。目標と手段の関係が制度やシステムのレベルで議論される場合には、問題は経済体制論にまで広がる。数量的な経済変数のレベルで議論される場合には、経済政策論はマクロやミクロの経済理論と関係してくる。最初は経済政策思想や経済体制論を取り上げ、授業の後半では、経済政策の各論や日本経済における具体的な政策問題を扱う。
学習目標：経済政策論の背景には思想や理論があること、また、思想や理論に関する見解の相違がどのように経済政策論に反映するかを理解できるようにする。

【授業計画】

1．経済政策の目標と手段、対象と課題
2．21世紀の経済体制
3．サードエコノミーと社会的経済
4．市場機構と経済政策
5．マクロ経済理論と財政・金融政策
6．日本の財政構造と金融秩序
7．90年代日本経済をめぐるケインズ派と新古典派
8．雇用問題と政策
9．社会保障と政策
10．資源・環境問題と政策
11．地域社会と政策

【成績評価の方法】

小テスト数回と期末テスト

【テキスト】

毎回の授業で講義の要約と資料を配布します。

【参考文献】

授業でその都度、案内します。

科　目　名			
経済成長論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	西　川　憲　二

【講義概要・学習目標】
西欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席巻してきた。今日では、各国が世界的な規模で経済競争にさらされるようになった。
　この講義では、西欧諸国の経済発展の歴史と戦後日本の経済発展の過程を検討して、経済発展の歴史的教訓を考察する。そして、経済学が経済発展をどのようにとらえているのかを簡単な経済成長理論モデルをもちいて説明する。そのなかで、経済成長の原動力として技術革新の重要性を論じる。

【授業計画】
1．経済成長とは
2．近代西欧とアメリカの経済発展
3．経済成長理論
4．技術革新
5．日本の高度成長と現状

【成績評価の方法】
出席、レポート、学期末試験

【テキスト】
なし。

【参考文献】
歴史編　キンドルバーガー「経済大国興亡史（上下）」
岩波書店2002年
理論編　スティグリッツ「マクロ経済学」「ミクロ経済学」
東洋経済新報

サムエルソン「経済学（上下）」岩波書店
後藤晃「イノベーションと日本経済」岩波新書2000年

科　目　名			
経済地理学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	野　尻　　亘

【講義概要・学習目標】
社会にはさまざまな格差がある。地域経済の格差もその一つである。それぞれの地域が平等に発展するのが望ましいのか。あるいは特定の地域のみが発展することが効率的でいたしかたのないことなのか。この授業では、地域・都市・経済の空間的なあり方を考えることにする。

【授業計画】
チューネン・ウエーバーの古典的な立地論からポーター・クルーグマンの最先端の経済地理学理論までを解説する。またシカゴ学派の古典的な都市社会学理論からハーヴエイの建造環境論・インナーシテイ問題などを紹介する。

【成績評価の方法】
試験によって、成績を評価する。

【テキスト】
水岡・水内ほか『経済・社会の地理学』有斐閣

【参考文献】
授業中に適時、紹介する。

科　目　名			
経済統計			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	桂　昭　政

【講義概要・学習目標】
経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要なSNA統計、とりわけ国民所得統計の特質と利用について、および個別分野の統計である産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用を中心に講義を進めていく。講義を通じて日本経済の現状の理解を深めるとともに、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を可能な限り行い、日本経済の現状についての理解がより一層深くなるようにしていきたいと考えている。

【授業計画】
1．国民所得統計の特質と利用
2．産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質と利用

【成績評価の方法】
学期末に行う試験結果を主とし、それに適時小テストを行い出席状況を加味して判定する。

【テキスト】
岩井浩也（編著）『統計学へのアプローチ-情報化時代の統計利用』（ミネルヴァ書房）

【参考文献】
吉田忠・石原健一編『統計にみる日本経済』（世界思想社）
木下・土居・森編『統計ガイドブック　社会・経済（第２版）』(大月書店)
内閣府編『経済要覧』（最新年版）

科　目　名			
経済法			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	牛　丸　與志夫

【講義概要・学習目標】
独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。講義では、独占禁止法の基本的知識と応用力の取得を目標とする。

【授業計画】
独占禁止法の集中規制、カルテル規制および不公正な取引方法の規制ならびに独占禁止法の実現手段を順番に講義する。独占禁止法の理解には、判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。講義では、『独禁法審決・判例百選』を常時、参照する。

【成績評価の方法】
期末試験で行う。

【テキスト】
①岸井大太郎その他著『経済法第４版ー独占禁止法と競争政策』（有斐　閣アルマSPECIALIZED）（有斐閣発行）
②厚谷襄児・稗貫俊文編『独禁法審決・判例百選（第６版）』（有斐閣　発行）
③青山善充・菅野和夫編『ポケット六法（平成18年度版）』（有斐閣　発行）

科　目　名			
刑事訴訟法			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	安　井　哲　章

【講義概要・学習目標】
本講義では、捜査・公訴・公判の各手続きを規律する原理を検討し、代表的な判例の分析を通して、理論と実務がどのように結びついているのかを考察します。

【授業計画】
テキストの章立てを目安にして、捜査から公判までの重要な論点を順番に解説していきます。

【成績評価の方法】
期末試験

【テキスト】
椎橋隆幸編『プライマリー刑事訴訟法』(不磨書房)
井上正仁編『刑事訴訟法判例百選[第８版]』(有斐閣)

科　目　名			
刑法各論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	秋学期集中	4単位	南　　由　介

【講義概要・学習目標】
刑法？と聞くと、面白そう、と思う人も多いかと思いますが、実際は、複雑で緻密で抽象的な（退屈な？）学問です。
刑法各論とは、個別の犯罪を規定している各刑罰法規の解釈を内容とする学問です。各犯罪の構成に関する議論を通じて刑法各論を理解し、法的思考能力、さらには幅広い視野から問題を考察し解決する能力を培うことを目的とします。
刑法各論は、総論に比べ具体的であり、学生にとっても理解し易いかと思います。しかし、細かい論点で難解であることは各論も変わりません。これも、一歩間違えば重大な人権侵害となり得る刑罰の重みからくるのであり、刑罰を科すことが場当たり的になされたら大変なことになってしまうからです。難しいからといってすぐに諦めず、疑問をもって考えてもらいたいです。

【授業計画】
以下の内容の講義を予定しています。
・個人的法益
　生命・身体に対する罪（殺人罪、傷害罪、堕胎罪、遺棄罪）
　自由に対する罪（逮捕監禁罪、脅迫罪、強要罪、性犯罪、住居侵入罪）
　名誉に対する罪（名誉毀損罪）
　財産犯（窃盗罪、強盗罪、詐欺罪、恐喝罪、横領罪、背任罪、盗品等関与罪、毀棄隠匿罪）
・社会的法益
　放火罪、文書偽造罪
・国家的法益
　賄賂罪
(時間の制約上、社会的法益、国家的法益にまで至らない場合がある)

【成績評価の方法】
試験を行います。
刑法学は熱心に勉強しないと単位が取れない科目です。試験前にはとにかく勉強してください。
教室内での私語は他の受講生にとって迷惑となるので一切禁止（守れない学生の受講は御遠慮願う)。

【テキスト】
井田良『刑法各論・論点講義シリーズ10』(弘文堂、2002年)
井田良ほか『よくわかる刑法』(ミネルヴァ書房、2006年公刊予定)

【参考文献】
西田典之『刑法各論・第三版』(弘文堂、2005年)
山口厚『刑法各論・補訂版』(有斐閣、2005年)
山口厚『刑法』(有斐閣、2005年)
井田良『基礎から学ぶ刑事法・第３版』(有斐閣、2005年)
芝原＝西田＝山口編『刑法判例百選Ⅱ各論』(有斐閣、2003年)

科目名			
刑法総論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	南　由介

【講義概要・学習目標】
刑法？と聞くと、面白そう、と思う人も多いかと思いますが、実際は、複雑で緻密で抽象的な（退屈な？）学問です。
刑法総論とは、難しくいうと、犯罪と刑罰の基礎理論であり、すべての犯罪に共通して妥当する理論です。講義内容が抽象的になるかもしれませんが、刑法を考察することによって刑法学を理解することのみならず、法的思考能力、さらには幅広い視野に立ち問題を解決する能力を培うことが可能になると考えています。
刑法学は、話が細かい、面白くない、と指摘されることがあります。しかし、難しいという感想で終わらず、何故、このように複雑で抽象的であるのかを是非考えてください。刑罰を科すということは、人の人生を変えることを意味しますので、それが場当たり的になされたら大変なことになってしまいます。どうしてこのような重い刑罰が科されるのか、感情に流されず、疑問をもって考えてもらいたいです。

【授業計画】
以下の内容の講義を予定しています。
・犯罪論の基礎（罪刑法定主義、責任主義、刑法の適用範囲）
・構成要件（不作為犯論、因果関係、故意、過失）
・違法性（正当防衛、緊急避難、安楽死）
・責任（責任能力）
・未遂犯・不能犯論
・共犯論

【成績評価の方法】
試験を行います。出席はとりません。
刑法学は熱心に勉強しないと単位が取れない科目です。試験前にはとにかく勉強してください。
教室内での私語は他の受講生にとって迷惑となるので一切禁止（守れない学生の受講は御遠慮願う）。

【テキスト】
井田良＝丸山雅夫『ケーススタディ刑法・第２版』(日本評論社、2004年)
井田良ほか『よくわかる刑法』(ミネルヴァ書房、2006年発刊予定)

【参考文献】
山口厚『刑法総論・補訂版』(有斐閣、2005年)
山口厚『刑法』(有斐閣、2005年)
井田良『基礎から学ぶ刑事法・第３版』(有斐閣、2005年)
芝原＝西田＝山口編『刑法判例百選Ⅰ総論』(有斐閣、2003年)

科目名			
刑法入門			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期	2単位	安井哲章

【講義概要・学習目標】
初めて法律を学ぶ人を対象に、具体的な事例の検討を通して刑法・刑事訴訟法の基礎理念を解説していきます。また、社会の安全を確保する上で採られている様々な方策も紹介したいと思います。
入門科目に相応しく、「法とは何か」、「法と道徳はどこが違うのか」といった問題についても検討することにします。
一つ一つ地道な理解を積み重ねて行き、刑法や刑事訴訟法を理解する上で必要な基礎力を身につけてもらいます。

【授業計画】
入門科目なので、法律の勉強の仕方や技術の習得にも配慮します。数回のレポート作成を通じて、自分自身で深く考える習慣を身に付けてもらいます。

【成績評価の方法】
レポートと期末試験を総合して判断します。

【テキスト】
なし

【参考文献】
その都度指示します。

科　目　名			
計量経済学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	荒　木　英　一

【講義概要・学習目標】
経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。経済モデルとは、エコノミストの頭のなかにある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。
この講義では、コンピュータを活用しながら、統計データ処理の基本からはじめて、経済学ではもっとも汎用的な実証分析手法である回帰分析を学んでいきます。

【授業計画】
記述統計のいろいろ
最小二乗法、決定係数
統計的推定と検定の考え方
回帰分析

【成績評価の方法】
授業中の小テストと学期末試験による。

【テキスト】
使用しない。プリントを配布する。2005年度講義資料は
http://rio.andrew.ac.jp/araki/gakubu05.html
を参照のこと。

【参考文献】
適宜に指定する。

科　目　名			
原価計算システム			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	坂　手　恭　介

【講義概要・学習目標】
「製品原価」の計算をするための「基礎・入門」に重点を置く。①まず、日常的な営業、企業活動の切り口との関連で原価計算のイメージが沸くようにガイドする。（１～２回）②つづいて、ヒト、モノ、サービスの消費が原価として把握されるプロセスを会計的な仕組のなかで理解し表現できるように、問題を解きながら習熟させる。（３～５回）③この段階で、市場取引の仕組みと製品生産の大まかな理解を得たうえで、製品別原価の計算について基礎力を涵養する。（６～10回）④利益計画、原価管理等の管理的側面からの計算の理解を促進する。(11～14回)

【授業計画】
１）原価計算の基礎　（１回）
２）原価の概念と分類　（１回）
３）原価計算と工業簿記　（２回）
４）材料費の計算　（３回）
５）労務費の計算　（３回）
６）経費の計算と製造間接費の計算　（４回）
７）原価の部門別計算　（５回）
８）個別原価計算　（６回）
９）総合原価計算　（７回）
10）工程別総合原価計算　（８回）
11）組別総合原価計算　（９回）
12）等級別総合原価計算　(10回)
13）販売費および一般管理費の計算　(11回)
14）直接費の標準原価計算　(12回)
15）間接費の標準原価計算　(13回)
16）直接原価計算と損益分岐点分析　(14回)

【成績評価の方法】
出席を含め平常点が60%、期末テストが40%

【テキスト】
原価研究会編『原価計算テキスト（改訂版）』同文舘。

科　目　名			
健康・スポーツ学講義―スポーツ科学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	今　西　俊　次

【講義概要・学習目標】
スポーツ科学は、人間そのものをあつかう総合科学です。近年この分野の発展には著しいものがあります。その成果には、たんに「強く・高く・速く」という、一握りのトップアスリートだけのものではありません。健常者にとってはもちろんのこと、障害者や中・高年者にとっても有効なものです。
本講義では、スポーツが生体に与える影響と体力がスポーツの成果に与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について学びます。また、ワールドカップ、オリンピック、MLB等に関する話題を取り上げ、スポーツの今日的課題についても考えます。

【授業計画】
［授業内容］
1. 運動と骨格筋・神経系
2. 運動と呼吸循環系
3. 運動と発育・発達
4. 運動と環境
5. 運動と身体組成
6. 運動と疲労
7. 運動と栄養
8. ドーピング
9. トレーニングの基礎理論
10. トレーニングの種類と方法

【成績評価の方法】
授業時のコメント、レポート、テストなどにより総合的に評価します。

【テキスト】
テクストは、特に指定しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献】
参考図書は、授業時に連絡します。

科　目　名			
健康・スポーツ学講義－体育・スポーツ論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	高　　成　廈

【講義概要・学習目標】
本講義では、現代社会における体育・スポーツに関する様々な諸問題を取り上げて講義を展開する。学習目標は体育・スポーツの諸問題を素材にし「スポーツとは何か」について深く考察する能力の向上を目指す。また、健康的な生活習慣の確立と日常生活の中にスポーツを取り入れることをねらいとする。
スポーツビデオと新聞資料を多用する。

【授業計画】
①オリエンテーション
②体育とスポーツの違い
③現代社会の特徴とスポーツ
④プロスポーツ
⑤企業スポーツ
⑥日本のスポーツ政策
⑦諸外国のスポーツ事情
⑧日本のスポーツ観
⑨スポーツコーチングとは
⑩コーチングの現状と問題
⑪科学的アプローチによるコーチング
⑫トレーニング計画と構成
⑬スポーツのメンタルトレーニング
⑭モチベーションのコントロール

【成績評価の方法】
出席、毎回の感想・要約、テスト等を総合的に評価します。

【テキスト】
資料を配布する。

【参考文献】
講義でその都度、指示する。

「健康・スポーツ学演習」クラス一覧

クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者
01	吉井　泉	27	今西　俊次	56	前山　直
02	松本　直也	31	末野　幹敏	57	中神　勝
03	辻井　義弘	32	松本　直也	58	末野　幹敏
04	辻井　義弘	33	今西　俊次	59	眞来　省二
05	辻井　義弘	34	前山　直	61	見正　秀基
06	眞来　省二	35	松浦　義昌	62	見正　秀基
11	藤木　泰治	36	末野　幹敏	63	志水　正俊
12	吉井　泉	37	末野　幹敏	64	志水　正俊
13	見正　秀基	38	高　成廈	66	濱口　雅行
14	藤木　泰治	39	松本　直也	67	高　成廈
15	濱口　雅行	41	藤木　泰治	68	今西　俊次
16	松浦　義昌	42	藤木　泰治	71	前山　直
17	中神　勝	43	高　成廈	72	前山　直
18	志水　正俊	46	今西　俊次	76	中神　勝
19	眞来　省二	47	前山　直	77	児玉　公正
21	藤木　泰治	48	児玉　公正	81	今西　俊次
22	藤木　泰治	51	末野　幹敏	82	前山　直
23	松本　直也	52	末野　幹敏	83	高　成廈
24	高　成廈	53	松本　直也	84	児玉　公正
25	松本　直也	54	松浦　義昌		
26	今西　俊次	55	濱口　雅行		

科目名			
言語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01 02	通期	4単位	大石正晴

【講義概要・学習目標】

言語学は人間の言葉についての学問である。万物の中で人類だけが持っている言語というものの価値は測り知れないほど大きく,言語なくして人類の存在は考えられない。

あらゆる言語は,それぞれ特有の発音体系,統語体系,意味体系を持っている。従って,言語学には基本的な分野として,個々の音声が発話のときに融合するいろいろな法則を分析する音韻論,文法的な文を構成するための語句の正しい配列の法則を研究する統語論,語句やその集合体である文の意味する法則を観察する意味論などがある。

上に述べた言語そのものに内在する言語固有の問題に加えて、「言語使用の問題点と最も効果的な方法は何か」,「人間の言語習得の原理は何か」、「人間の言語と動物の伝達の違いは何か」、「社会と言語はどのように関わっているか」等もまた重要な問題点である。

人間の知的活動のすべてが根源的に言語と密接に結びついている限り,人間の生き方にまで影響を与える言語の基本的問題について,できるだけ深い理解と知識を持つことには大きな意義があるであろう。

【授業計画】

主な考察点

1．言語とは何か
2．音声,語および統語について
3．意味について
4．言語使用――コミュニケーションの効果的な原理・方法について
5．言語と社会の関係について
6．言語と心について

【成績評価の方法】

出席率,および,レポートまたは試験による

【テキスト】

「改訂新版　入門言語学」ジーン・エイチソン著
田中晴美　他訳　（金星堂）

【参考文献】

「現代の言語学」（金星堂）、「言語学百科辞典」（大修館書店）、他に適宜紹介する

【備考】

＜02～06生＞
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科選択科目

科目名			
言語学－言語学Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	清水真一

【講義概要・学習目標】

“言語”はわれわれにとってあまりにも身近なものであるが故に、日頃それについて真剣に思いをめぐらすこともそうたびたびあるとは思えない。本講では、人間を人間たらしめている言語の本性とは何かについての考察をおこなう。そのため、まず人間言語と他の“コミュニケーション手段”との比較をおこない、人間言語の特徴をどこに見出すべきかの方向付けをおこなう。さらに、隣接分野とのかかわりの中で科学としての言語学をできうる限り明確に位置付け、人間言語の“文法”にかかわる考察を試みたい。そのため、サンプルとしての（英語の）文法の断片を提示することになる。われわれにとって身近な言語なるものにたいする関心を受講生諸君に惹起せしめることを目指したい。言語についてのより真剣な思索への導入となれば幸いである。出席が重視される。

【授業計画】

1．ことばと他の“コミュニケーション”システムとの比較論的考察
2．言語学と隣接分野
3．人間言語と、“文法”についてのいくつかの考え方
4．文法のサンプル（データは英語を中心とする）

【成績評価の方法】

原則として、クイズ、出席、定期試験に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献】

クラスにて適宜指示する。

科　目　名			
現代技術論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	辻　　洋一郎

【講義概要・学習目標】
最近は製造業だけでなく、流通、サービス、物流や金融の現場でも「技術」を知らないと仕事になりません。しかし、小難しい数式や理屈は工学部出に任せておけばよいのです。具体的な中身ではなく、技術の『考え方』さえ知っておけば、将来、営業や経理・企画で活躍する皆さん方が、技術者に翻弄されることなく、彼らをコントロールできるのです。
この講義では、身近な新製品や新技術を例にあげて『技術の構図』、『技術的なものの見方』や『技術的な考え方』をマーケティングとからめて理解することに力点を置きます。考え方さえ習得すれば、文科系でも理科系に負けない企画やビジネスチャンスをものにすることも可能です。この講義では、現代技術に対する恐怖心をなくし、技術に親しむことを第一にしています。

【授業計画】
（1）経済を支える技術革新
（2）技術の歴史と進化
（3）技術と製品・マーケティング
（4）ヒット商品にみる技術
（5）さまざまな技術／技能の具体例
（6）技術の進歩／技能の進化
（7）技術の限界と社会
（8）技術を取り巻く要因
(順序及び回数は不同)

【成績評価の方法】
学期末試験の成績、レポート、講義への積極的参加態度などを総合して評価します。基本的に出席はとりません。

【テキスト】
特に指定しません。

【参考文献】
講義中に都度推奨、指示します。

科　目　名			
現代思想			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	岩　津　洋　二

【講義概要・学習目標】
私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。爆弾テロを怖がり、お化けを怖がり、友人から嫌われるのを怖がる。じつに多くの恐怖が私たちの生活につきまとっており、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思いとどまり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定にかくも深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は多くない。
この講義は、哲学のみならず心理学・生理学・民族学などの多様な視点から恐怖を解剖し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるという実践的な課題を追求する。恐怖というキーワードをとおして、世界と自分自身を再発見する試みといってもよい。

【授業計画】
Ⅰ　恐怖とは何か
Ⅱ　恐怖と文化
Ⅲ　恐怖と秩序
Ⅳ　恐怖への接近
Ⅴ　恐怖からの解放
(第１回目の講義で、より詳細な講義計画を示す)

【成績評価の方法】
講義への参加度・提出物・テストによる総合的評価

【参考文献】
授業中に適宜指示する。

科　目　名			
現代社会論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	原　田　　達

【講義概要・学習目標】
現代日本社会の在りようを考えたい。その際、ふたつの切り口から現代日本社会に迫りたい。その切り口は、「祝祭」と「競争」。
「祝祭」と「競争」は、表面上は無関係にみえる。一方は情念の沸騰する社会的場であり、他方は理知で切り抜けてゆく社会空間である。しかし、社会は情念と理知が複雑に絡みながら構成されている。その複雑な絡み合いの解明までは行き着けないが、この相反する二要素を提示することで現代日本社会の現状に迫りたい。

【授業計画】
「祝祭」については「よさこい祭り」と「ジャズ・ストリート」を取り上げる。その成立、その展開、そしてその社会的意義について。それは、合理的に編成された現代社会のその「合理」の裏をかく社会現象でもある。
「競争」については、きみたちが経験した受験競争、きみたちが経験している就職競争、きみたちが経験するであろう昇進競争を素材にして、現代日本社会をつらぬく競争のメカニズムについて解説する。それは、合理的に編成された現代社会のその「合理」が冷酷に顔を出す社会空間である。
このふたつのテーマを解説することで現代社会の二面性を把握できればと思う。

【成績評価の方法】
試験をします。

【テキスト】
使用しません。

【参考文献】
その都度指示します。

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として、SS生対象外
SS生は学科教育科目

科　目　名			
現代中国社会			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	松　崎　征　弘

【講義概要・学習目標】
我国に比べ国土面積では約26倍、人口では約10倍である中国の現状を次の３つの面から理解する。
一つは、その民族構成の圧倒的多数（約90数％）を漢民族が占め、残りの数％が55の少数民族であり、多様な社会性を併せ持つ多民族国家の姿である。更に、膨大な人口の約７割が農民戸籍に所属し、とりわけ中国の農村社会には「三農問題」といわれる独特な社会問題が存在している。従って、多民族社会、農業社会の側面を捉える。
二つ目は、中国共産党による一党独裁の政治形態についてである。我国のような三権分立の社会制度ではなく、中央・地方の政治・行政・司法のあらゆる面で一政党が指導している国家制度の下で、地方の政治行政制度として23の省と５つの自治区及び４つの直轄市に加え、数年前にはかつての外国への租借地であった香港とマカオが返還された結果による特別行政区があるが、多民族国家として少数民族に配慮をした自治区の存在にも注目して、その政治社会の側面を考察する。
三つ目は、経済社会である。従来、国有企業が圧倒的多数を占め、あらゆる面で圧倒的な優位性を持っていたが、改革開放路線、行政改革或いはWTO加盟に伴う国際競争力の無さによって、今や昔日の影が無く、代わって、民営企業或いは外資企業の躍進が顕在化していることに注目する。
そして、1953年から始まった“五カ年計劃”という中期経済計画に沿った経済運営を進めていたのを、2006年からは“五ヵ年規劃”に名称を変え、より柔軟な経済運営を目指している。とりわけ、“五ヵ年規劃”の期間には2008年に北京オリンピックが、2010年には上海万博が開催されることから、経済社会の飛躍的展開の可能性の側面で論究する。

【授業計画】
春学期15回を３段階に分けて上述の３つの面から講義を進める。
毎回、テキスト及び配布資料（コピー）を使用。
第一段階：５回分を民族構成、農民社会
第二段階：５回分を政治・社会システム
第三段階：５回を経済社会

【成績評価の方法】
最終講義日にレポート提出或いはペーパーテストを行う

【テキスト】
①「中国経済データハンドブック」財団法人日中経済協会
②“第十一次五ヵ年規劃”（コピーで配布）

【参考文献】
①「現代中国の民族と経済」（世界思想社、佐々木信彰編）
②「現代中国経済の分析」（同上）

【備考】
＜06生＞
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

科　目　名			
現代の諸問題と英米文学Ⅰ－滅亡と再生			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	谷　本　泰　三

【講義概要・学習目標】
滅亡の危機に臨む文化から明るい未来への再生を暗示する文学作品を取り上げて講義する。原典を読むことはしないけれども、その重要な部分を講義中に出来るだけ丁寧に紹介する。

【授業計画】
1　序論　講義開始に当たって
2－4　ホーソンHawthone「痣」The Birthmark
5－7　メルヴィルMelville「筆耕者バートルビー」Bartleby the Scrivener
8－11　メルヴィルMelville『白鯨』Moby-Dick

【成績評価の方法】
期末試験またはレポート。
出席率、クラスでの発言、クラスへの貢献度等、平素の努力を高く評価する。

【テキスト】
講義で使用するものはその都度用意して教室で配布する。

科　目　名			
憲法			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	春学期集中	4単位	前　田　徹　生

【講義概要・学習目標】
憲法は、大別すると「基本的人権」と「統治機構」の二つの部分から構成されています。本講義では、これらの中から主要なテーマを取り上げて論じたいと思います。講義は、資格試験や国家試験の受講生にも有益であるように解釈論を核とし、また、理解を早めるために個別分野ごとに具体的な事件・判例を紹介し、可能な限り憲法訴訟論的アプローチを加味しながら憲法学説の体系的な解説を試みる。

【授業計画】
①憲法の意味と分類
②日本国憲法成立史
③人権宣言の歴史
④基本的人権の共有主体
⑤基本的人権の私人間効力
⑥個人の尊厳と幸福追求権
⑦自己決定権
⑧法の下の平等
⑨信教の自由
⑩表現の自由
⑪職業選択の自由
⑫生存権
⑬教育を受ける権利
⑭憲法第９条の起源
⑮第９条の解釈をめぐる諸問題
⑯国民主権とは何か
⑰選挙制度
⑱国会の地位
⑲国会の権限と両議院の権能
⑳内閣制度の諸類型と内閣の地位と権能
㉑司法権の観念と限界
㉒司法権の独立
㉓地方自治の本旨
㉔違憲審査制

【成績評価の方法】
基本的には、期末試験の成績を評価の基本とするが、その時々に興味をもったテーマにつき、任意に提出されたレポート（形式は問わない）も加点要素とする。

【テキスト】
芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第三版）』岩波書店

【参考文献】
佐藤功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房
樋口陽一『憲法』（改訂版）創文社
佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院
野中・中村・高橋・高見『憲法I』（第三版）有斐閣
粕谷友介・向井久了・矢島基美編『青林法学双書　憲法』（第二版）青林書院

科　目　名			
憲法			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	秋学期集中	4単位	松　田　聰　子

【講義概要・学習目標】
憲法の基礎を身近な例から習得することを目標にする。憲法が「最高法規」であり「人権の法」であるとの理解を深めていくことになるが、日本国憲法のほか諸外国の憲法も素材にしていく。講義は統治機構論と人権論とに大別してすすめていく。統治機構論では国民主権と司法制度を、また、人権論では、自己決定権論とその制限を基本的な視座に考察していく。

【授業計画】
1．近代憲法から現代憲法へ
2．日本国憲法の成立と特質
3．国民主権と選挙制度
4．国民主権と国民投票制度
5．国民主権と天皇制
6．国会の地位と権能
7．議院内閣制
8．司法制度の原則
9．司法制度のこれから
10．人権思想の系譜
11．新しい人権
12．人権の享有主体
13．思想・良心の自由
14．死刑制度
15．平等原則
16．自己決定権
17．信教の自由
18．表現の自由
19．社会権
20．平和主義
21．戦後改憲論の系譜

【成績評価の方法】
講義時の提出課題（ただし受講生の数による）、学期末試験で判断

【テキスト】
参考文献のほか、とくに用いない

【参考文献】
芦部信義『憲法（第三版）』（岩波書店）、
佐藤幸治『憲法（第三版）』（青林書院）、
渋谷秀樹他『憲法１・２（第二版）』（有斐閣）、
辻村みよ子『憲法（第２版）』（日本評論社）、
粕谷友介ほか『憲法（新版）』青林書院

科　目　名			
憲法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	前　田　徹　生

【講義概要・学習目標】
憲法は、大別すると「基本的人権」と「統治機構」の２分野で構成されている。憲法Ⅰは、「基本的人権」を中心に講義をおこなう。講義は、国家試験の受講生にも有益であるように解釈論を核とし、また、理解を早めるために個別分野ごとに具体的な事件・判例を紹介し、可能な限り憲法訴訟論的アプローチを加味しながら憲法学説の体系的な解説を試みる。さらに、今日もはや憲法理解に不可欠となっている欧米との比較憲法的視点を織り交ぜながらできる限り多角的な視野から考察をしていく。
　初年度の法学部の基本科目であり、法学学習の体系的理解を保障する意味もあり、講義においては、座席は指定され、出席は、毎回とる。ここで、脱落することのないように、１年生諸君の頑張りを期待したい。

【授業計画】
1）日本国憲法成立史
2）基本的人権の享有主体
3）基本的人権の私人間効力
4）特別な法律関係における人権
5）基本的人権と公共の福祉
6）法の下の平等
7）個人の尊重と幸福追求権
8）プライバシーの権利
9）自己決定権
10）思想・良心の自由
11）信教の自由・政教分離の原則
12）学問の自由
13）表現の自由
14）集会・結社の自由
15）職業選択の自由
16）財産権の保障
17）被疑者・被告人の権利
18）生存権
19）教育を受ける権利
20）労働基本権
21）国務請求権
22）参政権
※１つのテーマが複数回の講義になることもあります。

【成績評価の方法】
２／３以上の出席を単位認定の最低条件とする。成績評価は、出席日数および時々に行う小テスト並ぶに期末に行われる定期試験を総合して判断する。

【テキスト】
芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第三版）』岩波書店

【参考文献】
佐藤功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房
樋口陽一『憲法』（改訂版）創文社
佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院
野中・中村・高橋・高見『憲法Ⅰ』（第三版）有斐閣
粕谷友介・向井久了・矢島基美編『青林法学双書　憲法』（第二版）青林書院
辻村みよ子『憲法〈第２版〉』日本評論社

科　目　名			
憲法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	松　田　聰　子

【講義概要・学習目標】
憲法Ⅱでは、いわゆる統治機構を学ぶ。憲法は人権保障の法であり、そのための統治構造を定めた法であることは、憲法Ⅰですでに学んでいる。憲法Ⅱでは、日本国憲法における国民主権、権力分立、地方自治、財政、平和主義に関する原理と解釈の習得を目標とする。できるだけ具体的な事件や判例を通して体系的な理解を深めていく。また、わが国の憲法解釈に不可欠な比較憲法からのアプローチも試みる。なお、国家試験の問題などにも適宜ふれていく予定である。

【授業計画】
1．憲法と立憲主義
2．法の支配と法治主義
3．国民主権と人民主権
4．国民主権と選挙制度
5．国民主権と国民投票制度
6．国民主権と天皇制
7．国会の地位と権能
8．二院制
9．国会議員の特権
10．議院内閣制
11．衆議院の解散
12．司法権の意味と範囲
13．司法権の限界
14．違憲立法審査制の性格
15．違憲立法審査制の限界
16．司法制度の課題
17．裁判員制度
18．地方自治制度
19．財政制度
20．憲法保障
21．平和主義
22．戦後改憲論の系譜

【成績評価の方法】
学期末に行う論述試験で判断

【テキスト】
芦部信喜『憲法　第三版』岩波書店

【参考文献】
佐藤幸治『憲法（第三版）』（青林書院）、渋谷秀樹他『憲法２（第二版）』（有斐閣）、辻村みよ子『憲法（第２版）』（日本評論社）、粕谷友介ほか『憲法（新版）』（青林書院）

科　目　名			
憲法入門			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	前　田　徹　生

【講義概要・学習目標】
憲法入門は、憲法の学習を容易にするため、「具体的から抽象へ」、「素材（基本事例）の習得から理論的整理へ」を基本に、その前段階の憲法学習の基本となる素材（基本事例）の習得に力点が置かれる。それにより、以後の解釈学を中心とした学習での抽象的な概念整理に必要な素材（基本事例）を提供する。具体的には、憲法学での興味深い判例や基本概念の理解に不可欠な具体的事例の紹介と解説を中心とする。「生きた法」の現実を具体的に学習し、法律学の学問としての面白さを学び、法学学習への意欲を高めることが企図されている。
　初年度における法学学習の体系的理解を促すため、毎回出席をとる。

【授業計画】
1）憲法ガイダンス
2）法の種類・分類、法の解釈
3）「三菱樹脂事件」「エホバの証人輸血拒否事件」
4）「尊属殺重罰規定違憲判決」「非嫡出子の法定相続差別事件」
5）「津地鎮祭訴訟」「愛媛玉串料訴訟」
6）「立川事件」「北方ジャーナル事件」「徳島市公安条例事件」
7）「小売市場事件」「薬事法違憲判決」
8）「朝日訴訟」「堀木訴訟」「旭川学テ事件」
9）「全逓中郵事件」「東京都教祖事件」「全農林警職法事件」
9）「恵庭事件」「長沼事件」
10）「警察予備隊違憲訴訟」「板まんだら事件」
11）「砂川事件」「苫米地事件」「警察法改正無効事件」

【成績評価の方法】
２／３以上の出席を単位認定の基本条件とする。
出席日数および時々の小テスト並びに定期試験の結果を総合して成績評価の判断をおこなう。

【テキスト】
別冊ジュリスト『憲法判例百選I〔第４版〕』有斐閣
別冊ジュリスト『憲法判例百選II〔第４版〕』有斐閣

【参考文献】
芦部信喜『憲法判例を読む』岩波書店
樋口陽一・山内敏弘・辻村みよ子『憲法判例を読みなおす』日本評論社
棟居・赤坂・松井・笹川・常本・市川『基本的人権の事件簿』有斐閣

科目名			
語彙・意味論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01 02	春学期	2単位	藤原　健

【講義概要・学習目標】

ことばによる表現が単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達の手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。

この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。

【授業計画】

1．単語と語彙
　1）単語とは
　2）語彙とは
　3）語形
2．語の数
　1）基礎語彙と基本語彙
　2）使用語彙と理解語彙
　3）語数とカバー率
3．語の種類
4．語構成と造語法
　1）語の構成成分
　2）造語法
　3）造語に伴う音声変化
5．語の意味
6．意味に関する問題点
7．語彙教育のポイント

【成績評価の方法】

定期試験（半期科目であるので、春学期１回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

【テキスト】

森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』（おうふう）

【参考文献】

浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック（５）語彙』（国際交流基金／凡人社）

科目名			
公共経済論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	竹歳一紀

【講義概要・学習目標】

公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論により分析することである。すなわち、公共部門（政府）の介入が必要となるのはどのような問題に対してか、また、適切な介入（政策）とはどういうものか、といったことについて明らかにすることが重要な課題となる。

この講義では、（１）公共財と公共投資、（２）外部性と環境問題、（３）所得分配と社会保障、といったテーマをとりあげる予定である。

公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論IA－１を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。

ただし、講義では理論だけでなく上記のテーマに関する実態・政策面についての解説も行う。

【授業計画】

1．公共経済学の対象
2．厚生経済学の基礎
3．公共財と公共投資
4．外部性と環境問題
5．所得分配と社会保障

【成績評価の方法】

中間試験および学期末試験の成績による。
詳細は初回に説明する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

講義中に指示する。

科　目　名			
工業簿記			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	河　野　　勉

【講義概要・学習目標】
本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。
簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心につとめて実践的に授業を進めたい。
原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】
1．工業簿記の構造
2．材料・労務費・経費の計算
3．製造間接費計算
4．部門費計算
5．個別原価計算
6．総合原価計算
7．標準原価計算
8．直接原価計算
9．工場会計の独立

【成績評価の方法】
定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

【テキスト】
小林哲夫・伊藤　博（共著）「最新工業簿記増補改訂版」（実教出版）岡本　清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記ワークブック２級工業簿記」（中央経済社）

【参考文献】
岡本　清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記講義２級工業簿記」（中央経済社）

科　目　名			
公的扶助論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	赤　井　朱　美

【講義概要・学習目標】
1　現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
2　生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。
3　生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方について理解させる。

【授業計画】
1　現代社会と公的扶助
　1）公的扶助理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2　低所得対策の概要
3　生活保護制度のしくみ
　1）目的
　2）基本原理
　3）保護の原則
　4）保護の種類と内容
　5）保護の機関と実施体制及び財源
　6）保護施設の種類
　7）被保護者の権利及び義務
4　生活保護の最近の動向
5　生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方
　1）組織・専門職
　2）連帯のあり方

【成績評価の方法】
年度末定期試験による評価

【テキスト】
中央法規「公的扶助論」新版社会福祉士養成講座６

【備考】
生活保護受給者には、社会福祉のありとあらゆる問題が集約されていると言えます。ほんとうに生活に困るとはどういうことなのか、現代の貧困とは何か、人権問題に関心がある人、問題意識の高い人を歓迎します。事例問題を数多く扱います。いっしょに考えましょう。
＜02～05生＞
共通自由科目として、SW生対象外
SW生は学科教育科目